# 新女界

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

主筆安井哲子

東京新人社發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 新女界第參卷第五號目次


◎社説

◉他人の喜びに對する同情　安井哲

◎講壇

◉誤解せられたる基督　海老名彈正

◎想苑

◉矯風問題

△之れ實地の問題　島田三郎氏

△遊廓全廢論　山室軍平氏

△慘ましき國家の矛盾　宮田脩氏

△女子をして强からしめよ　高島米峰氏

△誘惑物を撤去せよ　斯波貞吉氏

◉續あめりか便り　海老名一雄

◉戯曲塔の少女　みをつくし

◉母の詩　藤田鈍物

◉夕の春　栞の花

◎家庭

◉高女卒業後婚嫁迄の敎育を如何にすべき乎

△家庭を持つ修行　弘田醫學博士夫人

△總ての土臺たる頭腦を養ふが肝要　元良文學博士夫人

△高等敎育を受けさせたい　某夫人

◉親と子　額賀鹿之助

◉姉様へ

◎時事其折々

◉清國の借欵成立◉清國の幣制改革

◎隨感

◉最もお芽出度事　海老名みや

◉最も憐れなる人　同

◉極度に内氣なる婦人　安井哲

交際場裡に文明の美花を開かるゝ紳士も奥さんも孃さんも香り深き千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價　七十錢　卅五錢　廿五錢　十七錢

試用見本郵券代用あれ

スワン石鹸

純白で湯水に浮き價安くて品の善いスワン石鹸は至る處の小間物、化粧品藥舗にあり　定價廿二錢

スワン石鹸日本一手販賣

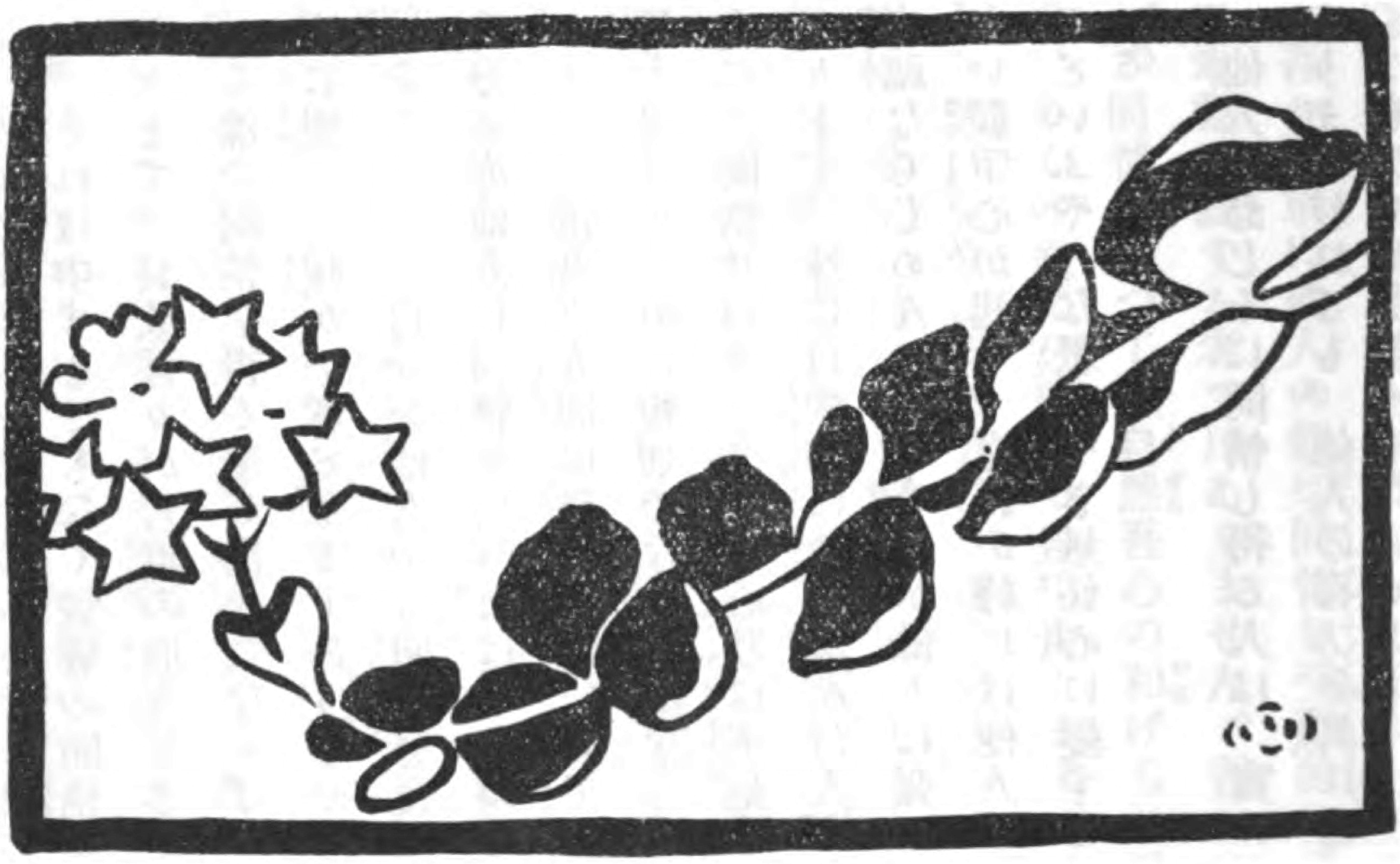
東京馬喰町四丁目

山岸三之助

電話浪花一三七九三

振替口座一九九七八


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



第參卷第五號

# 他人の喜びに對する同情

安井哲

親子や兄弟、又は夫婦等の親しい關係を有つて居る吾々は、此世の中で最幸福な生活をなして居る者でありますが、若しかゝる特別の關係のみで、朋友といふ者が一人もないとしましたならば、如何でありませうか。此世の中が何となく寂しく感ぜらるゝでありませう、其親しみの度に於ては、勿論親子や夫婦に比較すべき者は外に御座いませんけれども、朋友互の間にも亦いふべからざる懐かしさがあつて

若之れが全く吾々の生活から奪ひ去られたとしましたならば、吾々の快樂の大部分は失はれるでありませう、世の中には一身上の出來事を、親でなく却つて其朋友に相談する人もありますが、或種の事には、親や夫や妻よりも却つて其事情を熟知して居る友人の方が、最適當なる同情者となり得る事は、決して不思議ではありません。かく吾々が親子兄弟又

は夫婦の外に朋友を要するのは何の爲でありませうか。それは申すまでもなく彼等の同情を求むる故であります。其故吾々が若眞の朋友を多く有ち、彼等から深い同情を得る事が出來たならば、此世の中は實に樂しい暖かい者となるでありませう。

そこでかく自分が他人から同情を得て嬉しければ自分も亦他人に同情を與へねばならぬのは當然であります。併吾々人間は自利の強い者でありますから他人は吾がために親切でなければならぬが、吾は他人には同情せぬといふ樣な心狀に不知不識陷る事があります。殊に自愛心にのみ富んだ人々は、自己を幸福ならしめんとする希望が餘りに強く、従つて烈しい競爭心が起り、之れが終には他人の幸福を喜ばぬといふやうな厭ふべき嫉妬心に變ずる事があります。

他人の悲しみに同情し得る人は、實に立派な人でありますけれども、他人の喜びを眞に喜び得る人は實に神の如き性格を有する人であります、勿論親が



吾子の幸福を喜び、妻が其夫の喜びを喜ぶといふのは自然でありますけれども、それは子たり夫たる者が、恰も吾一部分であるかの如くに感ずる故であります。然るに朋友又は他人に對しては、彼等の不幸には涙を注ぐ人々でも、其幸福には何となく不快を感ずるといふ例は全くないではありません、そこで最卑劣な人は此惡むべき嫉妬心を憚りもなく外に表はし、他人の幸福なる境遇を見聞すると、直に不必要なる非難を其人に加へて傷つけんとし、又若他の人々がかゝる卑劣なる手段を以て其人を傷つけんとする時には、吾知らぬ顏に之れを聞き流して、善良なる人の爲めに辯護の勞を取らんともせぬのであります。此種の人々はかく正善なる人々の幸福を嫉み、又は中傷して、吾自身の汚れたる心を滿足せしめ得るかも知れませんけれども、之れは決して眞に自己を愛する所以ではありません。何故ならば、心ある人々はかゝる行爲に對して不快を感じ、其人を信用せぬ樣になりますから、他人を傷けた結果は、却つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て自己の損害となるのであります。

吾々は單に他人の親切同情を受動的に得るばかりで幸福に感ずる者ではありません、吾から他人に與へる同情に依つて、自然吾心の和げられ又暖められて、多くの幸福を感ずるのであります。故に能く他人の喜びを喜び得る人は、多くの人々の幸福を皆吾幸福に變化し得る力を有する道理であります。而も之れは人間に對して常に無量の興味を有つて居る人に於て、初めて爲し得るので、吾利害得失から割り出して、心を動かす人々に決して出來得べき事ではありません。

吾々は吾眼界を今少し擴張して、其住む世界、其興味の範圍を一層大きく致したい者であります。さすれば吾思はざる所に幾多の幸と喜とを見出し得る者で、之を他人と共に分つたならば、吾々は常に心に溢るゝばかりの樂しさを經驗し得るのであります。

然るに何を得んとして、他人の喜びを減ぜんと圖り、又他人に不必要な心配をかけやうと企て、加之自己も亦之れが爲めに無益の心勞をなすのでありませうか。

要するに吾々は誰も自己を愛する者でありまして之れがため、親子夫婦の間は勿論、朋友や他人にも吾に對する親切と同情とを期待し、之れを得れば、幸福と感ずるのでありますが、之れと同時に吾も亦他人に對して同樣にせねばならぬ事を忘るゝ事が度々あります。殊に吾々女子は興味の範圍が狹いために、人生の眞の快樂を解し得ず、我一人權威を得、我一人名譽を得、我一人信用を得たならば、之れが唯一の幸福であるかの樣に誤解し、他人の幸、他人の喜、他人の譽を快しとせざる卑劣な性格を不知不識に形作くるに至る事があります、而して之れは必ずしも無敎育の女子にのみ見る例では御座いません眞に我幸福を希ふ人は、先我を忘るゝ事が肝腎で、他人の喜びを喜ぶの心狀を有ち得る人は、期待せざる無數の喜が其身に集つて、最幸福な世界を自身に造り出す者であります。





Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

# 誤解せられたる基督

海老名彈正

△實に歎かはしい

パウロが知慧を以て誇る希臘人に書き送つた書翰の中に希臘人の知慧の如何に淺薄であるかを證明して居る、單に希臘人のみならず、一體世界の人々の知慧の淺墓である事を論じた。

何を以て之を證據立てるのであるか、即ち基督を誤解したといふことである。此の世界に比類なき、如何なる方面から見ても缺點のない尊い人が、最も惡い、宗教を破り神を汚し、國を亡ぼし、社會に害毒を流す者とせられた。何たる誤解何たる不見識である。パウロは此の事を論じた。今日吾々が宗教の源泉と仰ぎ、又千九百年に亘りて世界の人の尊み崇めた基督が、宗敵として、民を害ふ者として殺さるゝに至つたとは言語同斷の間違である。世に基督程神を虔ひ給うた御方はない。

然るに人は之を不敬な人として殺した。又基督程人類の爲めに竭された人はない。然るに民を惑す者として訴へられた。又基督程罪ある者に無限の同情を灑ぎ、弱き人苦しめる人の爲めに一身を犧牲にせられた人は無い。然るに民衆は國民の敵として之を殺した。世人の無知は此の一事を以ても證明せられ

る。

然らば基督を信じたる人々は悉く誤解はせない乎見誤りはせない乎。茲にも亦人の智の及ばざるを示して居る。先人の見た所は後人の斥くる所と成り、甲の言ふ所は乙の反駁する所となる。西洋の文學を見ると分る。如何に基督の研究が進みつゝあるか、増して反對黨に在つては今も昔も誤解ばかりである如何にも人智の晦いことがわかる。

### △世の誤解は免かれぬ

基督が竟に死の宣告を受け玉ふに到る一の導因は夫の殿潔めの事件であつた。當時エルサレムの殿は實に暴利を貪る商人の市場と化し、其背後には慾に飽かざる祭司共が控へて居る。故に之を観給うた基督は憤慨の餘り、非常なる改革的行動を採られた。時の有司共から見れば實に不法であつたらう、古來の形式を打ち壊す者であつたらう、然り基督には一面破壊的の精神が有つた。併し基督は世間の破壊者と同日に論ずべき人ではない。「我は法律を棄つる爲めに來れるに非ず、却つて成就せん爲めなり」と仰せられた。ユダヤの滅亡の悲運に際して、不思議にも異常の一大勢力を以て世界的に發展する精神と、主義と、力とを與へたのは基督であつた。

併し時の人は破壊者として、殿宇を毀つ者として訴へた。茲に誤解がある。基督は「此の殿を毀つ」とは言はれたが、自ら之を毀つ意志は無つた、殿の存亡は素より自然の成行に委せ給ふた。基督の胸の中ではユダヤ人はその愚なる爲めに、終に自ら殿宇の壊滅を招くべしと思ひ、爾曹よし之を破壊するとも、我は三日の後に之を建んと仰せられたので、當時の事には敵にも亦味方にも解らなかつた言である果せる哉、彼等の殿宇は毀たれて了つたが、基督の教はユダヤ人を超越して、世界的勢力と成つて發展した、世に眞の愛國者が屢々非愛國者として見らるゝ事がある、殊に基督の如き遠大なる人が世の頑迷固陋なる人々より誤解せらることは到底免れない、

是或は已むを得ざることとならんが、併し世の人の愚なるは悲しきことである。

### △縱令誤解せらるゝとも

基督の死罪の宣告を導いた、最一つの深い問題は即ちメシヤたるの宣言である。固より耶蘇は自らメシヤなる自覺を取つて居られた、之は明確なる意識であつた。然るにメシヤに就ての解釋は當時の人の見解とは自ら違つて居た。故に復茲に齟齬を生じたのである。基督は精神上の靈のメシヤを自覺し、ユダヤ人の理想のメシヤは國王である。竟に基督は誤解をして誤解に終らしめ給うた。強ひて此の誤解を解かんとしても敵手は分らない。是その法廷に於て默然たりし譯である。それでも「汝はメシヤなる乎否か」の最後の問に對しては、彼れ斷乎として然りと答へ給うた。此の答は直ちに死罪に當るべきである何となればメシヤは元來捕縛などせらるべきものでないと當時の人々は信じて居つた。縱令全人類に誤解せらるゝとも、又身は十字架上の苦痛に遭ふとも基督はそのメシヤたるを否定し給はなかつた。神は必ず自分の心事を明にし、理想は遂に實現せらるゝの日來るべきを信じ、敢て十字架上に悲慘の最後を遂げ給うた。實に此の時の基督の心情は吾々は到底察しきれぬ。此處は全く神明に一任する信仰である其明かなる又力強き自覺に由らねばならぬ。我を知る者は唯天の父のみ、爾曹都て我を捨つるとも、我は獨り居るに非ず、父我と共に在るとの信仰により毅然として行くべき道を行き、嘲笑罵詈の裡に我はメシヤなりとして動き給はなかつた。此の如きメシヤはユダヤ人の想像し得なかつた所である。故に祭司等は人を馬鹿にするものとなし、終に死罪を宣告した、是れ強ち眞面目を缺いた裁判ではない。畢竟愚昧の然らしむる所であつた。

### △何時まで人は愚なる乎

イエスは斯る愚昧の者と論ずるも到底詮なきを識

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り給うたが故に、遂に默然として相手に成り給はなかつた。唯神明の示し給ふ運命に委せ置かれた。既に死罪の宣告は議せられたが、當時羅馬の屬國民たる彼等は、之を羅馬の知事に諮らねばならぬ。是に於て彼等は國事犯なりとの故を以て之をピラトに訴へたのである。天に二日無きごと羅馬帝國にはカイザル皇帝の外には王は無い筈、然るにイエスはメシヤ即ちユダヤ人の王なりと宣言せられた故に祭司等は之を唯一の口實となして訟へた。當時ユダヤ人の中には謀叛を企て叛旗を飜へす者が一人ならず出た就中ガリラヤのユダの如きは中々侮るべからざる者で、其子も父の志を繼ぎ、愛國義勇の兵を出して羅馬軍と戰つた。又サマリヤにも豫言者が出て獨立を宣言するといふ有樣、彼等は皆失敗に了つたが、悲憤慷慨の士は到る所に充ちて居た、故に苟も事あれば羅馬に取つては一大事である。されば「我はユダヤ人の王なり」と宣言する者に對して、ピラトは輕々しく看過すことは出來ぬ、併しピラトは耶蘇を一見して其人ならざるを知つた。基督には時の慷慨家の徒黨や所謂愛國の志士に見る樣な切齒扼腕的風采は少しも無かつた。故にピラトは之を許さんとしたのである。併し狂熱せるユダヤ人の反對に遇ひ、ユダヤ人の王なりとの一言により遂に止むなく基督を十字架につけた。此の二個の誤解は今日に至るも尚ほ繰り返へされつゝある、政府の間に於て、又民間に於ても、未だ一種の疑の眼を以て目せられて居る。同じ誤解が繰り返へされつゝある。彼等の中には矢張り基督を十字架に釘けねばならぬといふ考を持つて居る。朝鮮人が聖國を來らせ給へと祈れば、早速之を報告して謀叛の企てだと言ふ、誤解も亦甚だしい。噫人は何時まで愚であり何處まで不見識である。

### △我こそ動かじ

要するに我が日本に於ては不幸にしてイエスは未だ誤解の人である。基督抹殺論が出れば誠に一種痛快の感を以て世人に迎へらるゝ。然るに此る誤解せ

られたるイエスの心事こそ、吾々の光であり、吾々の希望であり、又吾々の同情者である。吾々は如何に誤解せられても基督程には至らぬ。若し政府が誤解しても國民全體が誤解しても、我には解せらるゝ父母あり、妻あり、又友があるではないか。然るに基督は廣い世に唯た獨り、まあ何と言ふ淋しさであつたらう。エマーソンの言に、ルーテルも誤解せられたセークスピヤーも誤解せられたクロンウエルも誤解せられた。イエスも誤解せられた。大人は誤解せらるゝ者である」と言ふて居る。實に大人の運命は終に誤解せらるゝ事である。基督には百年經ち、五百年經ち、千年二千年經ちて尚ほ解せられぬ深さがある。是に於て吾々は世の中に於て最も幸福なる者と言はねばならぬ、此る崇高至深の基督に憧がれ其心事を解し、其同情を仰ふぎ、我が救主と尊崇め奉ることが出來る。此の點に於て吾々は人の知ることの出來ぬ深い尊い清い精神を解し、實に同情同感に勵まさるゝといふことは、如何に我が人生の尊き價値あるかを知る所以である。此處に自重自尊の據所を見出し、而して我れ世に捨てらるゝとも最早我が世淋しからず、人我を議するとも最早我は人に議せらるゝ事なし。吾等は基督の心を以て心とし、世を超越したる靈界の存在者として、世間の批判を顧ず、神の戰を戰はねばならぬ。今や我が日本は形式の愛國、形式の忠君、而して何事も黄金の前には自由ならざるなき僞善と、不敬虔と、不眞面目とに向つて戰はねばならぬ。最後の勝利は基督に在り。五十年百年、否千載の後に光を望みつゝ、實に永遠の光榮を神より受けねばならぬ。吾等は一度基督の誤解と其自覺とを觀る時には、如何なる激浪怒濤が打ち寄せ來るとも、我こそ動かじとの念、頻りに我が心を躍らしむる。我等は我等の行くべき道を喜びつゝ、望みつゝ進み行くより外はない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

想苑

# 矯風問題

去月九日淺草方面の大火に際し、東京の一名所と數へられたる吉原が全燒致しました事は讀者諸姉の既に御承知の事で御座いますが　遊廓の全燒から惹いて是が、復興を許可すべきか、許可するに就ては之を邊僻な場處に移轉すべし、又は家屋の建築に制限を附すべしと云ふが如き、矯風上の議論が所在に起りまして、新聞に講演に大分火の手が盛になつてまゐりました。吾等は事は只一遊廓なる吉原の存廢に懸つて一小事の樣に見えますけれども、之が首都たる東京の事件であるのみならず、之が解決の方法如何は帝國の道德的品位を世界に發表するものとして頗る重大視するものでありまするが故に、此問題に關して聞き得たる先覺者の意見を掲載して、一は吾等平生の主張を明かにし、一は此問題の解決に正當なる資を與へたいと思ふのであります。(記者)

## ▲之れ實地の問題

島田　三郎氏

私の公娼問題に關する意見は、今より三十年前に發表した意見と今も全く同一であつて、少しも修正したい考は無い。

第一に公娼禁止といふ問題は、一の理想の問題空想家の唱へる論であると或る種の人々は是に反對する是等の人々は公娼制度は實は止むを得ないといふ説を採る人である。併し此る意見を抱く人は此問題に關して何等眞相を研究する根氣の無い人である。

よく是等の人々の言ふ所は、公娼禁止を唱へる者等は一個の空想を抱いて行ふ能はざることを、何時も〳〵繰り返して居るに過ぎぬといふ。故に爰は空想であるが事實切迫の問題である事を主張したい。

今より二十年前に於て斯る問題が唱へられても、青年は一向耳を借さなかつたのである。然るに今日に至りては多くの青年が此の問題に就ては、善く研究すべき者であるといふ事が認められて居るのは、非常に喜ばしい事である。此の如く時代傾向は違つて居るに反して、政府の行ふ此の制度に於ては昔も今も尠しも變つて居ない。私は今日國民の思想の進歩の點に於て我が信仰を強めると同時に、世に此の問題程社會の改良を圖るに切實なるものは無いといふことを世間に訴へたいのである。宜なる哉、卓見ある政治家は今より三十九年以前に於て已に業に此の點に手を付けて居るのである。即ち明治五年に於て故江藤新平君は是が禁止を唱へた。實際問題である。是は長い間の慣習だから致し方がないからと云ふて尻込するのは、國家の爲政者としては寔に何等の勇猛心のない政治家であると云はねばならぬ明治の初年に方り彼のペルー國の船が支那人を奴隷に買つて本國へ伴れて歸らうとした、其時日本の近海で難破して支那人の或る者等は漸つと陸上に這ひ上る事が出來たので、日本政府に憐を乞ふた。此の時分時の政府は、支那人の奴隷の爲めに交渉して之を解放せしめた。支那政府も此の時は大に之を徳としたのであるが、後にペルーとの間に面倒に成つた時に露國の皇帝が間に立つて、竟に日本は正當の事を爲したのであるといふので勝利を得たのである。外國人の爲めに奴隷を解放せしめたる正義の日本が、内に顧みれば公娼といふ奴隷制度を採つて居る。是が江藤新平君をして廢止を唱道せしむる動機と成つたのである。名義は公許であるが實は人身賣買、而も倫理上最も大切なる婦人の操を破らしむる。江藤君をして斯る英斷に出でしめんとしたのは如何に明治の初年の英氣に充ちて居たかゞ解る。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

公娼の始まりを考へて見ると、漢の武帝の時に天下の青年が役人に成る試驗卽ち科擧の爲めに都に集まつて來る。是等の多くの青年の遊蕩を許したのが元である。昔日本でも未だ倫理上の觀念が乏しかつた時には、弱い婦人が强い男子に抑へられたので、是が遂に一つ所に集まる事に成つた。そして遂に之が慣習に成つて了つた。それに柔かい文學が出來て更らに此の慣習を煽動する。德川時代の文學の中には謹嚴の筈の儒者までが吉原の事なぞを筆にした。餘程手堅い馬琴ですら青年時代には此の事に筆を付けて居るのである。從つて今日も普通の當り前の事として世人も見て居る。固より都會には下水が澤山流れて來る。怎うしても生じて來るのである。さればと言つて、餘儀ないものであるからとて淨水道と同じものゝ樣に見るのは大變な間違ではない乎。此の點に於て遊廓は都會の餘儀ない下水であるのに、之を地下に隱さずに、人目に懸らぬ樣にせないで、却つて燈を揭げ櫻を植ゑなぞして人目を引く事を奬勵するのは大變な考へ違ひではない乎。

私は群馬縣に於て屢々此の遊廓問題では戰つたのであるが、或る人々の言ふには軍隊の置かれたる地には必ず遊廓が必要である、夫は良家の子女を犯す憂が有るからだといふ。苟も國家の干城たる軍人にして僅か二三年の間に於て情慾を抑へ切れないとは甚だ受け取れないことで、又之を統率して居る將校に對しては部下をして良家の子女を害ふ者の如くに、世人をして考へしむに至れる不面目を責めたいのである。又或は之は衛生上免かれぬ所で、怎うしても一つ處に集めて置かねばならぬと言ふ。併し一週一度の檢黴は殆ど形式に過ぎぬ。虛言を云ふことを商賣にする樓主と、恥を知らぬ醫者――どうせ遊廓なぞに居る者に立派な人が居る譯がない、其麽人の檢査が何うして當てに成る。

私の知つてゐる人で、其前代迄は此の商賣を爲たのに、其人の代に成つて廢業して正業に就いた人が四人程ある。處が其中の三人は早や家産を盡し名擧



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を損じ、其上に職業まで失うて跡方も知れなく成つて居る。其中は一人は又將に外の三人の人々の樣に成らんとして居る。是れ皆其人の不身持の爲めである。世の中に互に相信じ相信ぜられて進歩發展するものである。家の中に於ても夫婦親子が互に信じ合ふて行くから治まつて行く、廣い意味で信ずるといふことは教育の根本である。然るに虚言を商賣する中に育つ子供に親が幾ら金を積んで讓つても何の役にも立たぬ。却つて身を崩さしむる元になる。此る憐むべき者の中に、憐むべき婦人を强迫して、嫌と云ふのを無理に金で以て括り付けて、奴隷的な人にして置いて男の翫弄物にする。之をしも今の男子が止むを得ざる事として公許するとは實に言語道斷な話である。只今では內務省の方針が變つて來て、彼の和歌山の遊廓の新設は許れなかつた、賀すべき事で又正に然るべき筈である。彼等は尠からぬ租税を納めるからといふて、吾々と同樣な權利があると世の中で威張つて見せる。何處までも恥を知らぬ彼等は正當な營業を差し止めるとはけしからぬとまで思ふ。彼等にも選擧權が有る。從つて此の中から選まれて衆議院の中に交はつて來る。這麽な者にまでも畏れ多くも　陛下は卿等よく勉勵せよといはせらるゝ、是で怎うして國民の面目が立つ乎。

加之日本の醜業婦は南洋に支那に滿洲に又シベリヤに出懸けて行く、今では世界到る所に日本人の醜業婦を見ざる處がないといふ程に擴がつて居る、そして萬國の有らゆる人種の翫弄物にされて居る。是でも日本は尙ほ一等國といふ勇氣があるか。國內に於て婦人が翫弄視せらるゝ限り、國民の正邪の觀念の定まらざる限り、世界に對する此の恥晒らしを防止することは出來ぬ、そして何時までも日本人は世界到る處に侮られねばならぬ。

## ▲公娼全廢論

山室軍平氏

自分の位地から又經驗により自分の得たる所を有りの儘に、此の公娼全廢といふことを論じて行く。

一番に人道の上から考へても、今日の時代に此の制度が存すべきものでないと確信して居る。之を事實に照して見ると直ぐと解る。やれ親の爲だとか、夫の爲めだとか勝手な古い道德を說き立てゝ、大切なく〳〵婦人の操を破らせ、僅かな金で尊い體を縛り付けて、憐れにも生涯を嬲殺にする非道が怎うして人道に外れた事でないと言へやう。

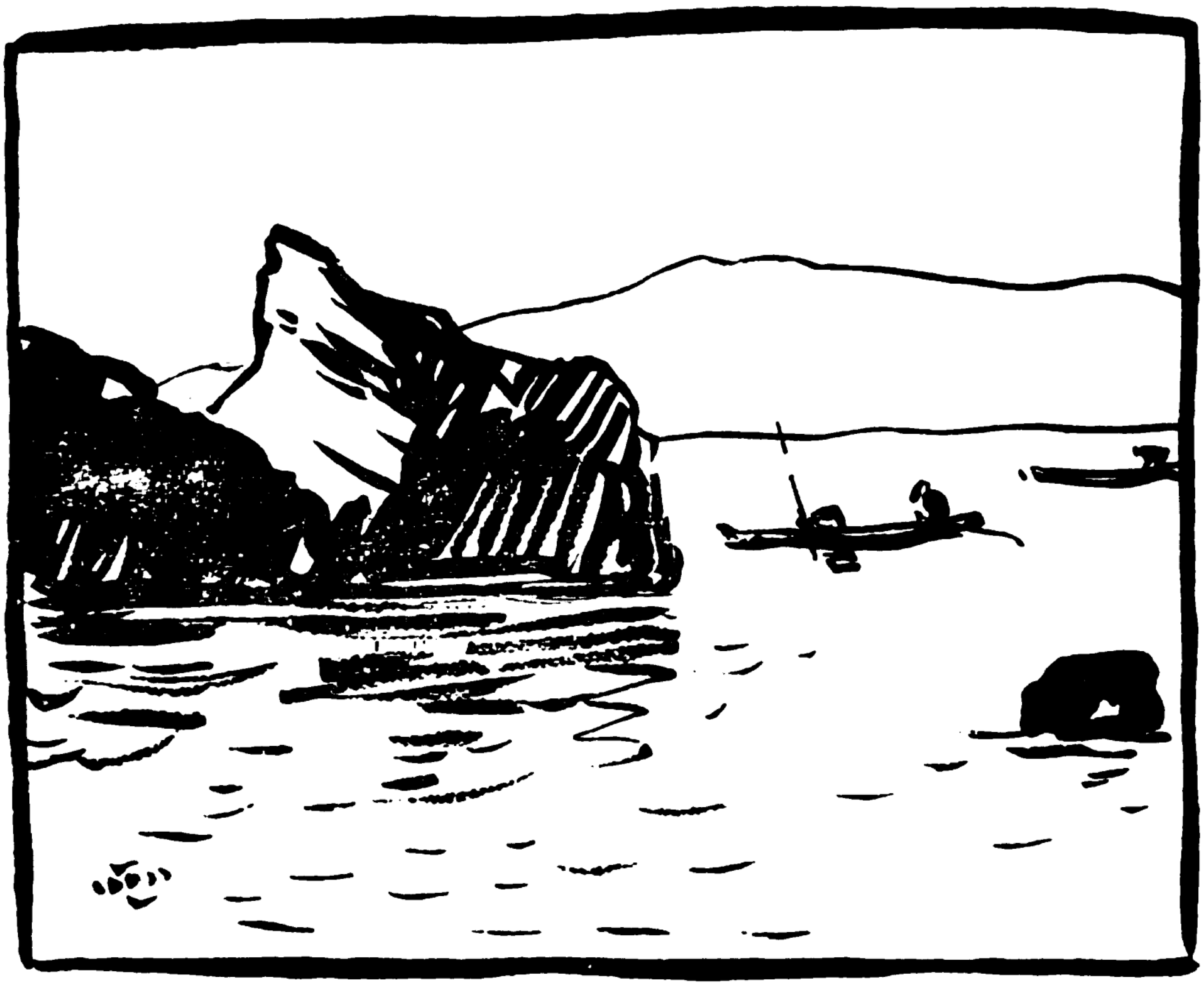
今日では監獄に於ても敎誨師が居て之を敎へて居るのに、世にも憐れなる此等の婦人の爲めに只の一言も、這麼な稼は惡い事であると敎へてやらない當局者の考は、甚だ其意を得ぬのである。或は彼等は仕末におへぬ代物であると言ふかも知れぬが、私共の手に於て實に千幾百人といふ此等の憐れな婦人を引き取つて感化して見たる經驗がある。

然るに彼等程感化し易いものは無いのである。吾々も其結果の頗る良いのを見て實は案外に思うたのである。彼等の境遇を變へて感化して行けば是程成績の良い者は無いのである。而も古い道德で猿轡を嵌めて、金の力で恐らしい强姦者の弄物にして居る。是でも人道に外れて居らぬと思う乎。

先年東北の飢饉の際に多くの若い婦人が拐かされて居るから、之を救うて遣らうと考へて一生懸命で働いて見た。是が爲に少し手が届かなかつたので、生れて四ケ月の子供が病氣に罹つた。今にも死なんとする息も絶え〳〵の赤兒の手を握り乍ら、病院の一室で身に迫る苦痛を一言も云ひ得ずして死に行く兒の顏を凝視しつゝ、私は心の中に契つた。世の中には是よりも苦しい境遇に居て、一言も其を訴ふることの出來ない人が澤山居るから、怎うか私は今此の兒に對して起る心を以て、世の憐れな人々に對したいと契うたのである。世に謂ふ人買とは怎麼ものであるか、「泣面があれ位だとゼゲン云ひ」といふ川柳がある。樓主は怎麼ものである乎、之を亡八と書い

てクッハと讀む、是は卽ち仁義禮智信忠孝悌の德がないとの意味である。

第二には風紀に就いてであつて、公娼制度は良家の子女を安全にすると考へる人もある。是は絕對に反對する。是では男子の獸慾は何處迄も遂げしめるのである。男子の獸慾の滿足が出來なければならぬならば、然らば婦人に就ては怎う考へるのである乎。此如き仕放題をば男子にさすとを公然に許すならば、當局者は何故に盜賊をも公許せぬか盜賊は人の物を取る





併し公娼制度は婦人の操を奪はしむるのである公娼制度が無いと良家の子女を害ふといふ論は全く空想である。其結果は全く反對である。女子の翫弄を許すから高尙なる婦人をも是と同じ樣に考へしめるのである。支那滿洲に於ても彼等は支那の婦人に對しては決して猥りな言葉は使はぬが、日本の立派な奧樣や令孃なぞが外出して下賤な苦力なぞから「ネーサン」なぞと呼び懸けらるゝのである。米國なぞでも相當な婦人が身を正して、日

本にも立派な婦人が居るのであることを示さうとしても、荒くれた勞働者などから折々「ジャップスケベー」などと嘲弄せらるゝのである。何といふ淺ましい恥辱であらうか。皆公娼を許す結果である。

又或る人は公娼を廢すると密淫賣が殖えるといふ是も全くあべこべである。統計の示す所に由ると娼妓の無い土地には密淫賣婦が餘り居ない、然り娼妓の居る所では娼妓の數だけ外に色んな種類の密淫賣婦が居る。遊廓のない前橋は人口三萬七千で、千人に對するいかゞはしい女が四、二人の割合である。之に反して遊廓のある高崎は千人に對して七、一人であつて、宇都宮では千人に對して七、九人の割合である。是で見ると前橋に比べて宇都宮は二倍である、更に長野や松本に至つては千人に對して一一、二人といふ大變な割合になる。人の性質は惡い處を見ると爲に惡るくなる。私共は公娼の滅する處には密淫賣婦も漸々亡ぶものと確信するものである。丁度此間岡山に往つて或る西洋人に會つたら、其人が私に向つて語るに、初めて日本に來た時に淺草の十二階の上では望遠鏡を以て惡い所を瞰下す樣に出來て居るのを見て非常に不快に思うた、あれは非常に善くないから何とか取締りは出來ないものかと問はれたので、私も大に耻入つた次第である。其外何とか彼とかといふては人の好奇心を驅つて人を誘ひ出しては手も出されない道樂者にして仕舞ふのである是が爲めに主人の金を費ひ込む者も出る、會社の帳面に穴をあける人も出來る、又家も名も打倒す馬鹿息子も出來るのである。加之世の中の犯人といふ犯人は大抵は皆遊廓に關係して居るではない乎。是でも公娼は許さねばならぬか。

第三には衞生上から論じても同じ點に來る。嘗て英國の國會議員が夫人同伴で日本に漫遊に來られて私の處をも訪ねて來られた。其時に其夫人が私に問ふて日本の政府は何故に公娼を營業せしむるかと糺かれた。其時私は當局の人々は衞生上止むを得ないからだといふ意見を抱くのであると答へたら、日本

には何故バットラー婦人の如き人が出ない乎、蒔く者をして刈らしめよと激しく言はれた事がある。此の間新聞で見ると吉原の燒跡で小舍掛で以て二十人の娼妓で六十人、又或る樓では十五人で四十人の客を取つたとあつた。是で一週一度の檢徴で何の役に立つ、夫でも馬鹿者は往きたければ往つて蒔いた種を刈るがよい。

第四には利益の點から考へて見ても同じことに成る。彼等は市の繁榮を助けると云ふ。東京市の遊廓のみでも年に四百七十八萬圓の莫大な金が落ちる。若し之を全國で見ると五千萬圓といふ驚ろくべき額に成る。此の金の中には固より敎育費があり事業費があり友人の金、主人の金、其他あらゆる不義の金が含まつて居るのである。這麽大金が不生產的な濫費に流用せられて居る。加之多くの娼妓が夫々正業に就いて仕事を爲すとすると、國家の爲めに如何程の利益であらう。日本全國の工場の勞働者の總數が五十八萬人其中婦人が三十三万人ある。今日世間に婦人の職業は幾らでもある。或る人は是より生ずる稅金によりて國庫の上に影響するといふ。誰が己れの腕の肉を喰つて其身を肥やさんとする愚を爲す乎日本の國庫は公娼の租稅に依りて漸つと支へらるゝといふて、恥ともせないで能く世界に顏出しが出來かと思ふ。

其次には國民の品性の上から見ねばならぬ。公娼の行はるゝ國民の道德は測り知ることが出來る。世界で一番離婚の多い國は公娼の行はるゝ國である。そして私生兒の一番多い國である。人殺をすれば之を罰する法律が、婦人の操を破ることは之を公許して居るのである。一思に殺さるゝよりも酷い、生涯を蹂躪にする者に對して、法律は相當な罰を加へて然るべきである。公娼の行はるゝ國は弱い者窘めの國民である。此の結果が夫の不德を見て默つて引込思案をする樣な婦人を作る。日本の婦人は何故に是等の憐むべき同胞婦人の爲めに力を盡さない乎。擊つても敲かれても蹴られても彼等の爲めに傳道せない



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

乎。世の中には閑な人もあるもので、主人の爲めには忠義だてをするものだなぞと彼等を說き廻つて、樓主の御爲を竭す人すらあるのに、何故彼等をば根本的に救ひ出さんとする人が無い乎。

最後に外國に對しても濟まない譯である。日本で公娼を許すといふことは國內だけでの事ではない。國家が公娼を許して置けば勢是が外國にまでも出懸けて行く樣になる。今日の結果は明かに之を示して居るのである。即ち日本の娼妓が外國に於て其風俗を亂して居るのである。依つて日本は是が爲めに列國に對して責任を負はねばならぬ。

以上何れの點から考へても公娼は怎うしても全廢せねばならぬことは明かなる問題である。

## ▲慘ましき國家の矛盾

宮田脩氏

私は專ら敎育者の見地に立ちて此公娼問題を述べて見やうと思ふ。一體普通の意味に於て敎育の最も主眼とする處は、人間らしい人間を作ると云ふ事にある。

然るに今茲に生徒を引率して上野公園に遊び、山王臺より淺草の方面に巍然して、大厦高樓の聳えるのを見て、生徒にあれは何んですかと問はれたとする。敎育家は果して何と答へるであろうか。敎育家としては決して虛僞を語る事は出來ない。然ればと云つて平生敎育勅語を眞向に振りかざして、彝倫の道を說き、道德の規範を敎へつゝある者が、同じ此市中に獸に等しき醜業に身を落さして、金錢の爲めに人權を蹂躙する處を公許して居ると云ふ事を、敎へねばならぬとは、實に國家の慘しき矛盾である。遊廓は宜しく早く全廢すべきである。若し諸種の事情により今遽かに全廢し得ずとするならば、更に之

を遠き場處に移轉して餘り人の目に觸れぬ樣にし、誘惑の度を少しでも少くするがよいと思ふ。

## ▲誘惑物を撤去せよ

斯波貞吉氏

大概の罪惡は金と女とによりて起ると云つても差支ない。取る可らざる金、近く可らざる女と云ふ事は承知して居つても世に罪惡は絕えない。之を見ても金と女とが如何に力强い魔力を有して居るかゞ解らうと思ふ。此處が宗敎や道德やが大に使命のある所以であるが、然し夫でも猶巢鴨の監獄が繁昌して行く。然らば之をどうしたらいゝかゞ問題である。之には斯る誘惑物に近かせぬが一番の策であると思ふ。

私が遊廓を全廢したいと主張するのは、此見地から云ふのである。吉原と云ふ不思議な場所が現今の東京の一名所になつて、家庭の間にも、親子の間にも遠慮なしに談話されつゝあるのは、之れ間接に醜業を是認する素地を造るものである。然も不潔なる一廓を許し、飾るに大厦高樓を以てし、盛に人目を惹いて居るのは、誘惑を一層大ならしむる原因である。而して風敎の維持とか德育の振興とか云ふのは寧ろ滑稽の至である。

或人は遊廓の存在を許して醜業者を一廓の裡におし込めた方が衞生の取締上非常に便利で有益であると云ふ議論をして、公娼制度を許さうとする人もある。一應尤もの樣であるが、能く考へると何等の根據のない議論である。取締と云つても果して完全に出來るものかどうかは疑はしい。現に衞生上の取締は完全に出來て居らぬ。此一廓を通して幾何の病毒が社會に流されつゝあるかは想像するに餘りあるたとへ如何なる設備をなすとも、此種の取締は完全に出來ぬ事は解り切つた事である。それ故衞生上の取締云々を以て公娼制度を是認する議論には、何等

の根據がないと云ふ事が解るのである。

一體吉原といふ處は舊幕時代に於ける平民の唯一最大の娯樂場であつた。武士から壓迫され全く手足を伸ばす事の出來なかつた平民は、金さへあるならば此處では武士も大名も意とするに足らぬ。夫れ故遊廓は平民の遠慮なき娯樂場であつたのだが、然し之は舊幕時代に於てこそ必要があつたので、明治の今日果して斯る遊廓の存在を必要とするだらふか、否々今日に於ては斯る意味に於ての遊廓の存在は、全然必要を見ないのである、只在來の惰性によつて今日に至つたのである。夫が證據には遊廓は年々衰微して行くと云ふのではないか、放つて置けば自然に亡び行く運命の下にあるものを、全燒した今日、それを再び保護して建直さしむる必要は何處にあるであらふか。

又近頃歐米では人種改良といふ事が大分盛になつて來た。優勝劣敗といふ事は現世界の大勢で如何ともする事が出來ぬ。此間に處して優勝者たらんとするには實に強健なる民族を有しなければならぬと云ふ議論から、人種の改良を計るといふのが其主眼である。此論は早晩盛になつて實行の結果も追々に上る事であらふと思ふ。各國既に競つて人種の改良を計つて居るのに、獨り吾日本は恥づ可き醜業を公許して、國民をして精神も肉體も益々墮落薄弱ならしめつゝあると云ふは實に思はざるも甚しいと云はなければならぬ。

## ▲女子をして強からしめよ

高島米峰氏

一體東洋では女を下等なもの愚なものとして卑しめたもので、所謂男尊女卑の思想が行はれて居つた其卑しめられた壓迫された女子に、男子が強者の態度と權利とを以て、自己の二大本能―飢渇と色情―

の一を強ゐた。弱者たる女子は仕方なしに、或は當然な事だと考へつゝ、男子の壓迫を甘受し、且つ之を歡迎し以て自己の生存の便を計らうとした。斯う云ふ道行から、私娼と云ふ者が世に起つて、其結果色々の方面に害毒を流すに至つたのである。之を行政や衞生の方面から見て、遊廓と云ふものを公許した方がよいと云ふ事になつたのである。要するに私娼にしろ公娼にしろ、之は强者の壓迫の產物である男尊女卑と云ふが如き文字で表はす可きでない、寧ろ男强女弱の結果と云ふ可きである。男子の品行が惡いからであると攻擊する人もある。成る程それは必しもいゝとは云へぬが、然し之は男子許りの罪でない、女子が餘りに弱かつた罪も大にある、男子の無理無體を默つて承知して居る樣な意氣地のない女子の罪であると云つてよい、若し女子がも少し强くなつて男と同等の位置に達したら、かゝる事は頭で成立せぬ。男の玩弄に甘せぬ意氣が女子にあつて、男は何だ、等しく人間ではないか、五分五分だと對立して爭ふ實力を女子が有するならば、遊廓などは獨り手に消滅して仕舞ふ。

然るに過去の婦人も現在の婦人も男子に對しては餘りに弱い。女子の生命たる貞操、又は權利を蹂躙されて、男女とも人道上の罪惡を犯かして居る罪は必ず婦人も負はなければならぬと思ふ。然し其罪は男女何れにあるとても、遊廓存在の理由とはならないのである。

遊廓存廢の議論は暫らく之を措き、先決問題は女子をして强く尊からしめ、男子をして貞潔の德を獨り女子にのみ强ゆるが如き事をなさしめぬ樣にしたならば、此問題は自らにして解決がつくであらふ。



### 前號正誤

先月號、弘田夫人の(育兒についての注意)中(四十七ページより四十八ページにかけて)スープの中へ「ほんの少し、御飯を入れまして、二時間さ、三時間も熟煮いたしましたのを與へますのです」の二時間も、三時間もは、聞き誤りにつき取り消し「ほんの少し、御飯を入れまして、熟煮いたしましたのを與へますのです」と正誤いたし候

# 續あめりか便り

海老名一雄

第一信は紅葉の便に答へて書いた。今宵は江東の梅花に浮るゝ故里びとを憎いと思ひ乍ら書く。「北米文明の美に誇るとも梅花の賞すべきものありや」。そんなわかり切つた自慢は聞きともない。誰れの指圖を受けずとも花の日本、月の日本には焦れて焦れて焦れ抜いて居るに、思ひやりのない。二口目には直ぐ梅だ、櫻だ、桃だ、藤の花だ。この口惜しさに比べて見れば、上州の山が厭、都が戀しいなど云ふ方は果報が過ぎて罰が當らうも知れぬ。はは、飛んだ所で野口夫人の惡る口を云ひましたね。八ッ當り眞平御免。實は今その新女界の三月號を讀み了つた所なので。してその「見果てぬ夢」に顯はれた筆の麗はしさ、新女界も君ありて始めて若い血が通つて居るのかと思ふと眞に難有い。何故なれば新女界は其名にも似合はず隨分御婆さんじみてるじやありませんか、櫻が咲かうが、鶯が鳴かうが、新女界に春が來るんでしやうか。美し乙女の春の事です。それとも日本じや御祖母さんと御母さん許りが女で、若い乙女には御仲間入りが許されて居ないんでしやうか。新女界は世の浮薄な風潮に反抗し、虚榮に憧憬るゝ社會を憤つて生れて來た新しい女の世界なんでしやうどうも此節の若い者には困りますと云ふ親御さん方の獨專場ではありますまい。僕はもつと若い生々したこれから花になつて榮えやうと云ふ乙女の感じを我が新女界の上に見出したいのです。

　こんな感じを懐くやうになつたのも畢竟僕があめりかに來てからのことです。あめりかでは文學でも音樂でも、教會でも學校でゞも、凡そ活動の中心となり、命となつてるものは悉く血氣の青年です。女ならば若い、美しい女です。そうして年長の男女がよくこれ等の青年を立てゝやつて居る所、實に美しいと云つてよいか、大度量と云つてよいか。僕は眞

にこの點に於てデモクラチックの國に精氣あり、活氣ある所以を見出しました、よしむば國柄が違ふとは云ひ乍ら、日本では若い者の云ふ事とさへあれば直に先輩が毛嫌ひをして叱り飛すじやありませんか先づ一叱り叱つてからでなければ若い者の説は容れられぬと始めから相場が極つてるじやありませんか卽ちこれ世に云ふ姑根性と云ふものです。此姑根性の存在する間日本に生々した眞の青年の生れやう筈なく、潑溂たる乙女心の湧いて來やう筈なく、陰鬱と悲觀とは永久に青年男女の上につき纏ふに相違ありません。恰も元老政治の存在する間、日本の政黨が發達せざると等しく、日本の社會が此姑根性を脫却し去る迄は、永久に青年の活動は見られないと思ふのです。人はパンのみにて生くる者に非ず。青年の厭世觀を單に衣食糊口の窮乏に歸するが如き皮相の見解が所謂日本の讀者を動かして居るとは實に情ない現象ではありますまいか。數年來聞き古した文句ですが、求めたり而かも與へられずです。青年の心理には絕大の獨立心あると同時に一方熱烈なる依賴心があります。青年が晝夜の祈願は己が心服せる英雄の下に動かん事であります。己れの眞相をよく了解して使つて吳れる先輩を要求して居るのであります。然るに先輩の姑根性は何でも彼でも頭ごなしに叱り飛ばして折角延びやうとする青年の心をいぢけさしてしまふのじやありませんか。日本で自然主義が健全な發達を遂げ得ないのも畢竟若い者を立てゝ吳れる大度量が先輩に無いからです。今の分じや乾度日本には社會黨が發達しますね。皇室の尊嚴を傷けようとする無政府黨は日本人の民性が到底許しますまいが、幸か不幸か一般社會黨の勃興は到底防止する事が出來ますまい。單に社會經濟の上から云つたならば日本の社會は未だ社會黨の必要を感じて居ないかも知れません。だから米國の樣に勞働黨の興る樣な事は當分無いかも知れません。併し知識ある青年を今の樣に羈束して居ては必ず其階級から不平が與つて來る筈だと思ひます。世人は往々にし

て米國には莫大の社會黨が居るやうに思つて居ますそれは勞働同盟などを勘定に入れて單に數字上から云つたならば其統計的數字は莫大なものです。併し米國のやうに個人の平等自由が認識されて居る國柄には決して智識ある社會黨の勃興する譯はないのです。例へて云へばミルウォーキーに社會黨が勢力を得て遂に市長とまで其黨中より撰出しました。而かも其眞相を尋ぬるにこれ畢竟從來專横を極めた民主黨に對する反動に過ぎないのです。市民の歡迎した所以は其社會黨なるが故に非ずして單に舊に倦きて新を撰んだと云ふに外ならないのです。だから必ずしも社會黨でなくとも新しい勢力でさへあつたら市民は歡迎したのです。

かくの如く米國内の社會主義者と云ふものは實に名許りの社會主義で、自分の胸中に何の不平もなければ不滿も抱いて居らぬ連中が多いのです。恐らく將來益々其傾向に進んで行くだらうと思はれます。これは全くデモクラチックスピリットの存在せるが爲であつて、青年が衣食の道に窮する窮しないに拘らず。其言論がよく傾聽され、又先輩がよく青年を導いて行く方法を心得て居るからであります。つまらん實例をひくやうですが、あめりかの大學ではよく學級討論と云ふものをやります。所が例の向ふ見ずのあめりか人の事故ろくろく下調もして來ないくせに只常識に任せて出鱈目の議論を云ふのです。殊に十七八の若い女學生と來たら此出鱈目の問屋なのです。然るに堂々たる大教授と云はれる連中が少しも之を馬鹿にする事なく、僕等が聞いてさへ冷汗が出る樣な愚論をよく傾聽して一々其可否を討論に訴へて説明するではありませんか。あゝ此尊い精神あつてこそあめりかの共和政治萬歳だと思ひました、而してかゝる場合に多くの日本學生は沈默する事が多いのです。これは一は言語の不自由な爲もあり、一は思慮深き日本人の民性が然らしむる所でもありましやうが、一は古來青年とさへあれば馬鹿にされ其説には一々難癖をつけられた慣習が頭の奧底まで

深く深くしみ渡つてるからではありますまいか。悲しい哉僕等青年の心は確に此壓迫によつてひがまされて居るんです。あゝ青年の解放、これ現代の聲ではありますまいか。僕は決して共和政治の謳歌者ではない。萬世一系の皇室を無上の誇とし、神孫説を有する程度迄國民崇拜の中心となつて居られる皇室を絶大の光榮を以て推奉し、南北朝正閏論を勃興せしむるに至るほど其神聖を重要視され給ふ皇室の難有さを痛切に感じ、山水明媚天下に比類なき東海の靈土を中心として理想的大帝國の顯現發展の爲には此賤しい命位何とも思はぬ一人である。而かも其熱誠の大なれば大なるだけ我等青年が更に向上發展の路を講せねばならぬ事を深刻に感ずるのであります。先輩は口を揃へて曰ふ。現代の青年には憂國の志がない。理想が淺薄で狹少であると。知らず其罪那邊にかある。主曰く、十字架を負はんものは我れに來れ。哀むべきかな現代の青年は十字架を負はんと欲するも許されず。邦國の安危を双肩に擔はんと求むれども容れられず。意氣あるの徒は不平の徒なり。不平の徒は遂に破壞の徒たらざるを得むや。青年が非道德的自然主義に走るを止めんとならば、何が故に現代の道德に對して青年が試みつゝある批評に耳を傾け、説くべきは説き、容るべきは容るゝの度量を示さゞる。青年には空想もある。誇大妄想もある。而かもこれを健全に發育せしむるに勉むるこそ先輩の採るべき至高の道ではあるまいか。僕は內ケ崎先生の大論文を見て再び此感を新にしました。成程日本の國柄は頗るカソリックの國柄である。日本の議會政治は確かに共和政治的なるべからずして中央集權的なるべきである。我ウイスコンシン大學社會學の教授ロッス博士も嘗て云はれた。日本が米國の共和的、自治的國是を學ばずして獨逸の中央集權主義に則つたのは非常の卓見で、日本の今日ある所以、支那の到底及び難き所以も一にこゝに存して居ると。併し乍ら日本は一方立憲政治の國である。少くとも日本國民は立憲政治を大成しなければなら

ぬ大責任を有して居る。然らば先輩が其姑根性を捨てゝ青年の言論に傾聴するの必要なるや論を俟たない。日本の青年は決して生れ乍らにしてプロテスタントではない。若し其言論にして重せられ、否少くとも其存在を認められ、先輩が欣然として其十字架の一端を頒つてくれるならば、喜んで先輩が頤使の下に働き、犬馬の勞をも敢て厭ふ所ではない。これ所謂モダーニズムの叫ではあるまいか。嗚呼今日の如く社會に姑根性が瀰漫し、先輩が皆自己の地位と、自巳の權威を保持するにのみ汲々として青年の絶叫を無視するならば、モダーニズムの日本思想界に勢力を得るまた難い哉。内ケ崎先生がいくら踏張つても、頑迷なる先輩諸氏が果して耳を傾けるかどうか。それとも内ケ崎先生は自ら一個の老先生として立たれる覺悟で居られるのか、どうか。僕は先生が未だ日本の社會に於ける一青年で居られる事を信ずる。否先生がかくあるべき事を祈る。僕は先生が若し所謂先輩然として青年の叫を叱り飛ばす態度に出でられたならば、モダーニズムもへちまもない。依然としてプロテスタントたる事を光榮とする。

江東の梅信に答へての此ふみ、飛でもない事になつて亂る通信の態を得ず。梅見に答ふる文と云つたら作文の先生から早速落第點を頂く所です。寒月梅花を照す悽愴の感は梅の特色とやら、面白い浮れたほんとの通信は此次櫻狩の便に答へまゐらすべし。只幾重にも我愛する新女界が「こりあ娘、よく承はれ」底の御訓戒ばかりでなく新しく社會の惡風から孤立した若い而かも美しい乙女の頰のさくら色に彩られて、北米漂浪の兒が落寞の住み家に、懷しい故郷の春を傳へしめられむ事を祈願仕ります。

祭の頃はいみじうをかしき、木々の木の葉はまだしげうはなくて若やかに青みたるに、霞も霧も隔てて空の景色の、何となくそぞろにをかしきに、すこし曇りたる夕つがた、よるなど、しのびたる杜鵑の、遠うそら聲かと、おぼゆるまで、たど〱しきをききつけたらん、何心地かはせん(清少納言)

戯曲

# 塔の少女

みをつくし

人物——

漂泊の王子
塔の少女
眠れる少女
怪しき媼　A
怪しき媼　B
怪しき媼　C

一

秋。薄明。

砂丘あり。月見草の花凋殘す。波の音。

古りたる塔、聳ゆ。木柵。そのあたりは荒廢せる花園にして薔薇の花に埋づめられ、蔦の葉に纏はる。すべてのもの泛べるがごとく、影のごとくに見ゆ。

機の歌、塔の上遙かなる窓より聞ゆ。仄かなる他界の聲のごとし。

（機の歌）

白鳥のゆめ、水の夢、
白鳥のゆめ、水の夢。

並木には青き鳥死す、
盲ひたる鳥の息たゆ。
白鳥のゆめ、水の夢、
白鳥のゆめ、水の夢。

溺れたる鳥の希望よ、
盲ひたる青き小鳥よ。

白鳥のゆめ、水の夢、
白鳥のゆめ、水の夢。

漂泊の王子、木柵のほとりより迷ひ出づ。

漂泊の王子。　姉さま、お姉様は。……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

怪しき姫A。　御前は何處から來たのかい。

漂泊の王子。　御姉様は……

怪しき姫B。　何處へゆくの………

漂泊の王子。　御姉様………

怪しき姫C。　私達は御前の姉様のことは知らないのだよ。ね。どうして此様なところへ來たの。此處は子供の來るところではありません。

漂泊の王子。　姉様は西の方へ行つたの……

怪しき姫A。　西の方だつて……

漂泊の王子。　日の沈む國へ……

怪しき姫C。　日の沈む國へ……

漂泊の王子。　海を越えて……

怪しき姫A。　海……

漂泊の王子。　青い船に乗つてね……

怪しき姫(A、B、C)。　青い船だつて？……

漂泊の王子。　あゝ青い船、青い船に乗つて行つたの。

（沈默。）



怪しき姫C。　幾歳になつたの……

漂泊の王子。　九歳……

怪しき姫C。　九歳にしては大きいね。姉様の御歳は……

漂泊の王子。　十五になつたのだよ……

怪しき姫、相見てうなづく。無言。風の音。暗き沖の海を、鳥のごとき船滑りゆく。塔の上に灯の光見ゆ、王子の顔に落つ。

白鳥のゆめ、水の夢、
白鳥のゆめ、水の夢。

漂泊の王子。　あれは何……

怪しき姫B。　あれはね。『溺れたる愛のうた』と云ふの……

漂泊の王子。　誰れが歌つてるの……

怪しき姫A。　私達の母様……

漂泊の王子。　あなた方の母様……

怪しき姫A。　さうなの……

漂泊の王子。　姉様は塔のある國へ行つたのだつて。

怪しき姫B。　こゝは『夢の郷』ですよ……



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

漂泊の王子。『夢の郷』にだつて塔はあるでせう。

怪しき姫B。それはさうだがね……

漂泊の王子。（塔を指しつゝ）あそこには其外に何かあるのでせう。

怪しき姫C。何もない。彼處にあるものはみな眠つて居るのですよ。私達の母樣だけが醒めて居て機を織つてるの……

漂泊の王子。その人は僕の母樣ではないでせうか。

怪しき姫B。さあね……

漂泊の王子。姉樣の母樣ではないでせうか。

怪しき姫B。それはね。私達も知らないの。たゞ此處に居るものはすつかり母樣の子なんですよ。この薔薇でも、葛でも、輝く星も、啼く鳥も、水も海も青い船も……

漂泊の王子。叔母さんは青い船を知つて被在る？

怪しき姫B。いえ……たゞね、見たことはあるの。

漂泊の王子。姉樣は……

怪しき姫B。見なかつたよ……

並木には青き鳥死す、
盲ひたる鳥の息絶ゆ。

（長き沈默）

漂泊の王子。では叔母さま。僕は行きます。

怪しき姫A。何處へ……

漂泊の王子。あそこへ……

怪しき姫A。いけません。いけません。……御前も眠つて了ふから……

怪しき姫C。とても行けないから。

漂泊の王子。僕は行きます。

怪しき姫B。では被行い。氣をつけてね。庭に迷はないやうにね。

漂泊の王子。難有う。さよなら。

怪しき姫(A、B、C)。御機嫌よく……

王子去る。怪しき姫動かすして立つ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 二

庭園の中。崩れる石階。涸れたる泉。奇異しき大理石像數の中に立つ。

凋落の薔薇。薔薇の花に埋められる庭園を示す。塔に達る石階あり。その下に「眠れる少女」、白檀の長椅に凭る。「夢の郷」なり。

漂泊の王子。やつと此處へついた。あの蒼白い水の底を行くやうな月の光あるどんなにか美しかたでせう。石像が歌つてくれた『石に眠れる夢』のうた。

封じたる泉のマンドリンの響。水のさゝやき。水のほとりに坐つて居た時、樹立のかげに眠つたとき、暗い森の樹の下に立つた時。僕は何を考へたでせう……僕は野蠻人の戰爭を思つた。槍が飛ぶ。刀が飛ぶ。赤と青との彩色のある盾がいくつもいくつも岡を越えてやつて來る。僕は赤い搖籃を思つた。その中には僕によく似た嬰兒がすやすやと眠つて居る。僕は白い墳墓を思つた。僕によ

く似た死骸が柩の中に横つて居る。そして金蓮花の花が落ちて其人の額にかゝつて居る。僕は深い谿間にさしかゝつて來た。椿の葉末に一滴だけ露がたまつて居る。露が落ち、滴が落ちて溪河となる。流るゝ水となる。泉となる。大河となる。そして大きな海に入る。葉から葉に滑つて落ちるとき露は大海の潮の音を聞くのでせう。昨夜一夜、『溺れたる愛のうた』と『石に眠れる夢のうた』が風の絶え間に聞えたつけ。

あゝもう夜が明ける。『夢の鄕』の夜が開ける。早く、早く御姉樣を探なくちやあ………おや。(眠れる少女を見て)此人は。……………… ………もしもし。もしもし。起きないや。もしもし、僕の姉樣を知つて被在いませんか………

眠れる少女。(無言なり)

漂泊の王子。うつくしい人だ。叔母樣達の云つたやうに此人も『夢の鄕』に眠つて居るのだらう。あゝ夜が明けて來た。波の音が聞える。もしもし、もう朝ですよ。朝ですよ。ね。起きなさいな。

眠れる少女。(僅に身を動かす)

漂泊の王子。僕の姉樣を知りませんか。姉樣を知りませんか。…… …… …… もう機の音も聞えない。機の叔母樣は死んだのかしら。叔母樣達の母樣。姉樣の母樣。僕の母樣……

眠れる少女。(眼を開く。驚ける樣に立つ。)お前は何處から來たの。

漂泊の王子。僕も知らないのだよ。

少女。何處だらう。此處は。

漂泊の王子。僕も知らないの。僕の姉樣を知りませんか。

少女。御前の姉樣は何處にいらしたの。

漂泊の王子。青い船に乗つて行つたの。海を越えて行つたの。

少女。青い船！

漂泊の王子。貴女は青い船を見たの？

少女。青い船。妾はその青い船に乗つて來たのだつけ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

漂泊の王子。 ぢや、あゝ僕の姉様は……
少女。 それは知らない。何でも餘程まへだつたから
ね。さうだ。餘程まへだつたね。青い船が廣い大きな海を飛ぶやうにして走つたのは。鳥の翼のやうに青い帆、青い夜の棹歌、『溺れたる愛のうた』………
漂泊の王子。『溺れたる愛のうた』だつて……
少女。 あゝ。妾は何處で聞いたのでせう。遠い、遠い『記憶の郷』を迷つて何處へ行つたのでせう。…
漂泊の王子。 此處は『夢の郷』なんですつて。
少女。 おゝ『夢の郷』だわね。妾は『夢の郷』に眠つて居たのだわね。
漂泊の王子。 さうなの。
少女。 さうだ。『夢の郷』だつた。妾が此處へ着いた時はこの薔薇の樹なんかこんなに小さくて噴上げの水は高く夕陽に輝き、木柵は新しい色のペンキで塗つてあつたのだが……あゝ何十年と云ふ前何十年と云ふ間妾は『夢の郷』に居たのだわね。
漂泊の王子。 さうなの。そしてもう朝でせう。だから貴女は眼を醒したのでせう………
少女。 夢の郷、夢の郷。
漂泊の王子。 夜が明けて來ましたのね。

## 三

塔の上。 黎明。
欄なざさり散らしあり。二人の姿 影のごとくおぼろに見ゆ。
風の音。波の音。海鳥の叫。

塔の少女。 氣を確かにしておくれよ。妾の膝を枕にしてね、長いお前の旅を話してお呉れ。ね。氣を確かに。いつまでも、いつまでも妾とはもう別れないのだから。別れるものかね。誰れが何と云つても別れない。(咽び泣く)手を御貸し。おゝ冷い手、何と云ふ冷い手だらう。可愛想にお前は凍え死んで了うだらう。
漂泊の王子。 ……姉様……姉様…………
塔の少女。 姉様は此處に居るよ。胸は痛まないの。さすつてあげませうね。………… 寒かないの。

漂泊の王子。　姉様……僕は行つちまうの。

塔の少女。　何處へ、姉様を置いて何處へ行くの。え、姉様は何處へもやらないよ。いつまでもいつまでも斯うして抱かれて居るのだよ。抱かれて居るのだよ。……………何、連れて行く。誰れがつれて行くの。誰れが、誰れがお前を連れて行くのだつて。

漂泊の王子。　姉様…………姉様には聞えないの……

塔の少女。　波の音……風の音かい………大丈夫よ。恐れなくともいゝのよ………………あの不思議な絹を裂くやうな聲、あれは海鳥が啼くのだよ……

漂泊の王子。（かすかに）　さうぢやないの……姉様……姉様には聞えないの………あゝ漸々近くなる……

塔の少女。　何も聞ねないじやないかね。きつと神樣よ。ね。今晩はもう御やすみ。斯うして妾の胸で温めてあげるから。妾の頬で温めてあげますからね。

（沈默）

漂泊の王子。（やゝありて）……姉様はいつ此處へ來たの…



塔の少女。　長い、長いまへ、十五の歳だつたわね。妾がこの塔を上つた時はやつと機にとゞくかないかと思ふ程小さかつたのだよ。『溺れたる愛のうた』を歌つてた叔母様は其時も此處に居て機を織つていらしたがね。止められるのも聞かず機に觸るとすぐ指をついて、其處から流れる血を見たの。その時からお前の來るまで眠つて了つたの………顏色が惡いのね。痛むのぢやなくつて……

漂泊の王子。　僕は行つちまふの……姉様………

塔の少女。　何故、どうしてそんな事を云ふの。………

漂泊の王子。　だつて夜が明けて來たのでせう……

塔の少女。　『夢の鄕』の夜が明けて來たのね……

漂泊の王子。　だから……姉様……姉様にはあの聲が聞えないのだ………

塔の少女。　何以聲、どのやうな聲………

漂泊の王子。　姉様……僕のぐるりには水があるのでせう………

塔の少女。　そんなことがあるものかね。此處は塔の上

だよ。お前のぐるりは妾が居るばかりだよ。………

（涙ぐむ）氣を確かに、氣を確かにお持ち。姉樣が居てあげますからね。誰れが來たつてもお前は渡さないのだからね………

漂泊の王子。だつて………姉樣……青い船が………

塔の少女。青い船！

漂泊の王子。青い船が來たのだもの………

塔の少女。あゝ！

（倒る。二人の息絶ゆ。）

## 四

木柵の外。

暗黑。怪しき姫A、B、C、三人。

怪しき姫A。青い船は出ました。

怪しき姫B。日の短かゝつたこと。

怪しき姫C、『夢の鄕』の夜になりました。

# 母の詩

藤田鈍物

## 上

大空の太日は東山の彼方、未だ遠く地下で刻を刻みつゝある間に、常闇の大地をせめてもと纔かに照す弦月の淡き光を浴びながら、自分は今牛乳車を引いて、場末の蓮池と青田との間の細道を通つて居る日中の恐ろしい暑さも此の曉の野には流石に影もない。北金山颪の涼しい風がそよ〳〵と肌身に浸み亘つて蘇生へる樣な思がする。蓮の葉が左右に搖れて摺れ合ふ、露の玉が光る。車の輪立ての無粋な轢る音がともすれば詩興を紊す。忽ち犢が「モウー」と力の無い低い哀れ氣な鳴き樣をするのが聞ゐる、應へて親の牝牛が又「モウー」と長く唸る。目前に近づいた牧場の其低い細長い牛小舍の窓から、薄暗い火影が洩れて來る。愈々近づいて來ると牛の溺の惡臭が鼻

を衝く、然し自分の鼻は案外に無頓着である。尤も最初の半年程の間は實に此の臭に堪へ切れなかつた程であつたが習慣性とは偉いものである。五年後の今日では却つて氣持がよい。或は倫敦人の煤煙の説と同軌である。

乳汁が如何にも甘まさうにシヤ〳〵と迸奔つてゐる音がする。最早や搾乳者は餘程搾つて居る樣子である。取扱所では數人の荒男が大聲に口々に罵り合つてゐる。それに空瓶の勝合ふ音 時には落ちて敷石に壞ける音、鉽力杓子やら鑵やらの無粹な音 都べてが雜然と秩序のない騷ぎをやる。

「天公、お前其處退け…………」まだ誰だか怒鳴つた時僕は入口で、「親分達お早う」と毎朝の樣に挨拶をした。すると一同が「やあ！」と對へて僕の方を一寸見る。

「親分今朝は偉う早いなあ！」と一人が云つた。すると又一人が後を附けて、

「親分がモ少し後ければ乳は方が付いてゐるんだ。今朝は足りないぞ！」

此の牧場では誰でも親分々々と呼ぶ。だから僕も親分である。尤も僕が一番古るい顔である。そして天保錢で餘錢を呉れる樣な奴を天と呼ぶので、蔑きに天公と呼ばれた奴は卽ちそれである。極々背の矮い色の黑い、そして出額の男である。然し眼丈けは恰好良く大きいが、惜いことには狂顚として途方もない目付である。僕も急いで空瓶に乳を入れる、早い奴は早や眞白い瓶を、盛んに蒸氣を吐き出す消毒器に入れてゐる。例の天公も片手に三本宛の瓶を以て消毒器に通つてゐる。處が奴さん今度は他人の爲る樣に四本宛持つた、危く見えたが漸つと消毒器の處まで來て下ろす拍子に左の手から一本滑り落ちた。ガチヤリと瓶は微塵になる。牛乳は白くパッと周圍に散る。處が不意に後から癇走つた聲で、

「馬鹿！　小戻らぬ癖に！」

僕は直ぐ、やあ、女將軍の御出馬かなと思ひながら、一寸覩た。天公は例の眉毛を剃つた鋭ざい眼で睨ま



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れて呆然立つてゐたが、やがて恐る〳〵瓶の破片を拾ひ集めて外へ出た。室内は一寸靜まる、すると一人が鼻歌を始めた、又他の一人が是に和する。鉞力杓の音がする、瓶の音がする、依然として騒々しい

「そんな事をしては乳が外へ溢れる！」

と女將軍は鋭く注意した。注意された男は案外平氣で、矢張り元の通りで乳を瓶に詰めてゐる。之を見たる女將軍何ぞ堪ふべけんやである。忽ち逆鱗の眼光面に現はるゝや、電光石火、その男の手より杓を奪ひとるや、早いか自ら手早やく牛乳を詰め始めた男は澄ましたもので見物してをる、女の癖に小癪なといふ色が見える。

兎角する中に總べての用意が出來る、女將軍は自ら一々瓶の數を調べる。次き〳〵に輪立て勇ましく馳けて出る、歌ふ、怒鳴る、叫めく、それも次第に消えて行く、僕は最後に殘つた。後は大風の一過した後の樣に靜まり返へる。此の女將軍といふのは此の牧場の支配人のお神さんである、三十を五ッ六ッも越した女であるが中々の男優り、自然は善くしたもので此の種の女には常に氣善しの男が添ふものである。此處の夫婦もその例に洩れないで、良人は極へのお人善しである。だから女將軍が一切を切り廻す。少し云ひ後れたが此の女には未だ子供がないのである。

僕もそれから出て行く、時に天地は既に光明の希望である、曙光は東天に朗らかである、二條三條の横雲が緣を眞紅に色どられて、峯から峯に棚引いてゐる。星が二ッ三つ碧明の中に寔に優しく瞬たゝいてゐる。纖月は猶は光あせず是と美を競ふてゐる、地上に於ては名もなき路上の青草の葉末に白露がキラ〳〵と光つてゐる、點々散在せる百姓家から細い煙が嫋々と昇つてゐる、實に朝の天地は平和である自分は是から生存競爭の爲めに逐はるゝのであるか斯の如き淸い世界の中では生の苦痛は如何しても認ることが出來ぬ。長い苦學も是ありてこそ自分に出來る。我は斯る天地に永久生存したいと冀ふもので

ある。

以上は去年の夏の某月書き記るして置いたものである。今日ふと取り出して讀むと尠し書き足して置きたくなつた。

## 下

三月程以前に例の女將軍は一人の男兒を產んだ。暫時見えなかつたのもそれが爲である。近頃は時折赤兒を抱いて出て來る。然し頓んと世話を燒かない赤兒の顔を眺め入つては時々頰摩をする、接吻をする。寔に他愛もない樣子である。以前の鋭どい眼は影だも見ることが出來ない。此頃では傭人に對しても極めて親切である。以前とは全るで別人に成つた。以後如何な荒男等も決して惡口を云はない樣に成つた。僕は時々その口から洩れて來る兒守歌を聞いて熟々と感じ入る。女子は子供を持つとあれ程違ふものであるか。實に女の持つべきものは小供である。嗚呼母の詩は斯くして成ると思つた。

# 小さき家の日記

小川あい

○月○日

一重の櫻の花は大分散りか丶つた、今日の風ではモー駄目でせう。四月の月は思出の多き時よ私が初めて形式ばかりでしたが獨立して家庭を成したのも此月の末思を昔に辿れば可笑き事ばかり。

無一物の寄合さて其初は小さな室を借住して世の人の目には甚だ貧しき日々を送て來りましたが望さ愛さ信仰は僞善をかくす巨萬の富や不安の心を包める美しき衣よりも遙がに遙かに幸福でした。

段々さ買集めた諸道具は皆私共の勞働から得た財産で一ツ〳〵愛情が込もり大事に〳〵思はれます。

押入があつても入れる道具の無き淋しき家でしたが基督心を以し相互に信じ合ふた私共ばいつも愉快でそして共に神に憧がる丶身には些しの寂莫も感じた事はありませんよく若き奥樣方の御感想さして結婚當時の御愉快に比べて淋しき日頃の御物語などお伺ひ致しますが私共は未だ其等の經驗を致した事は御座りません。

小さな家庭丈けに負ふ所の生活難は御座りますが家康公の家訓に人の一生は重きを負ふて遠き路を行くが如し急くべからずさある如く實に其急ぐべからずださ思ひます。

何事も辛棒が大事で病氣にも忍耐が必要なれば看護にも忍耐が必要ですぐ人樣さの御交際にも忍耐を要せば子を育てるにも忍耐が大切です。

○月○日

(客)君は近頃大分お肥りになりましたれ、お宅の待遇がよくた成りか。(主人)イヤ近頃烟草を止めました。(客)へ………。

日頃烟草の害は認めて居りましても、禁烟する事は三度の食事を減ずるよりも困難に思うて居ましたが、不圖止めましてから、食慾が増加し、常々胃腸の悪き人でしたが、メツキリ丈夫になり、三四ケ月の後早や他人様からた肥りになりましたさ、お言葉を戴く様になりました。

主人の丈夫に成りしは家庭の者の第一の喜悦、從うて小さき經濟も其烟草代丈けさ申してまさまつて金融はつきませんが、自然に所々へ潤うて參ります。

# 夕の春

## 菜の花

うらゝかな春日の光を浴びて、飽くまで樂しく花摘みして、櫻草咲く荒川河畔に一日を暮しました。

濃い色をさ集めた花束を、兩の手に溢れる許り握りました時、その燃ゆるやうな紅さ、若き胸をそゝるやうな花の香に思はずも接吻しながら、夕づく野邊に離れ難なの思ひして立ちつくしました。

緑の草さ紅の花さに、埋もれた廣い武藏野の一隅に、今し華やかな春の日は落ちやうさするのでありました。

そして野面はその夕映の空に照りはえて輝いた時、造化の偉大な美の力に魅せられて恍惚さして私は佇みました。夕陽は彼方の樹立を鮮かに彩どり赤々さ野さ人さを射ながら、見返り際に第一刻落ち行くその影は、次第に痩せてやがてそれも見えずなつたさき、纔名殘の餘光は長く空に漂つて居りました、明日の天氣を契るかのやうに。

さきまで見えた此所彼所の人影は、何時しか見えずなつて、うすら寒い夕風が輕い袂をかすめてゆきました。たゝ暮れゆく野邊よ、さらば。渡船の舷に凭れて盡きぬ名殘を惜しますには居られませんでした。

酷い誰が手に棄てられたのでせうか、悲しい花の骸を浮べながら行く碧水漲る荒川の水は靜かに音もなく、棹さして歌うたふた舟の主は何方へやら、船底に狼籍さして花の亂れた空しき舟は、岸邊の蘆に繋がれて、邊り淋しき水の流は眄もせで夕霧の中に消えて行きました、春の淡き哀愁を載せて。

●如何に家政を整理すべきか　佐治實然著
東京　内外出版協會發行　定價金四拾錢
富を得るも難く、富に處するも亦更に難し。一代の人心浮誇輕薄空虚なる生活に憧れて齊家修身の要道に背くもの比々皆然らざるはなきに當り、所謂最も健全にして最も善良なる家の所有者たる著者が多年の經驗さ成績さに由つて家政の整理法を説明したるものなり。所説萬言、平易適切、夫れ此書を繙いて自ら家を啓く者蓋し少なからざるべし。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 高等女學校卒業後婚嫁迄の子女の教育を如何にすべき乎

## 家庭

### 家庭を持つ修行

弘田ます

それはもう、女子が學問も充分に出來、家事もよく會得して居るにこした事は御座いませぬが、娘時代は短う御座いますから、私の娘だちは、まづ、將來家庭をもちました時に差し支へませぬやうに、女學校卒業後は、裁縫を主として、料理、それについで、お茶の稽古、お花の稽古をさせ、家庭を持ちましてからの注意について、始終學ばせて居ります。

臺所の經濟も受け持たせ、父の衣服の世話は、責任をもたせてさせて居ります。カラーも、カフスも夏物も冬物も、（時々私が見てやりまして）一切任せて居ります。それから客の接待なども、よほど氣をつけて、させました方がよいと存じて居ります。もとより誰にもかれにもと申すわけにはまゐりませぬけれども、婦人客や極懇意な方などは、お目にかゝらせて、接待のしぶりを學ばせます事は大切と存じます。さうして慣れさせておきますと、一寸客に接しましても、無言で睨みくらをするやうな不體裁がなく、世間話をしましても、らくに出來るやうになります。洗濯法などは、私が、いろ〳〵研究しました通りを教へて居ります。

それから、家庭の趣味と申しませうか、私の宅で

はなるべく、主人の留守の間に家の中の整理や、仕事などをすまさせまして、主人のひまで宅に居ります時などには、家族のものが皆うちくつろいで樂しむといふ風にいたして、娘たちにも見習はせて居ります。主人をうつちやり放しにして、忙がしさうにたちはたらくなどは、主人の方から見れば、非常に無趣味に感ずるだらうと存じます。

それから、主人は外の用事に忙はしう御座いますから、主婦が、氣をつけて、親戚知己の吉凶には主人とよく相談をして、禮をかゝぬやうに、心得させておかねばなりますまい。

あまり、苦勞を知りませぬと、萬一境遇の變化に遭ひました時、奮發心もなにも起りませぬから、なるだけ、事によつては、嚴しくしつけたるがよいと存じます。朝夫と同時刻に起き出づるなどは、感心いたしませぬ。少なくとも、一時間か一時間半位先に起きて出て、食事の準備だけは、自らしなければならぬと存じます。そのやうに娘たちもしつけて居ります。

## 總ての土臺なる頭腦を養ふ事が肝要

元良よね

高等女學校卒業後の女子の結婚までの教育は如何にすべきか、大層しかづめらしい問題でございますね。けれども全く此の問題は苟も娘を有つ親は凡てとは申されませんが、まづ大抵の上にかゝつて來る極く六ケしい問題で、さうして唯机の上の議論で無くて、實際に於て是非とも解決しなければならない大問題でございます。

一體、小學校より高等女學校までは例へば、一筋道を歩いて行くやうなもので、別段迷ふやうな患もなくて進んでゆけますが、一朝高等女學校を卒業して其門を出ると、道は八街になつてゐて、どちらの

道に踏み込んだら、一生の旅行を最も安全に又幸福にして行けるであらうかといふ事は何處の親も其娘のために一思案する處であらうと思ひます。

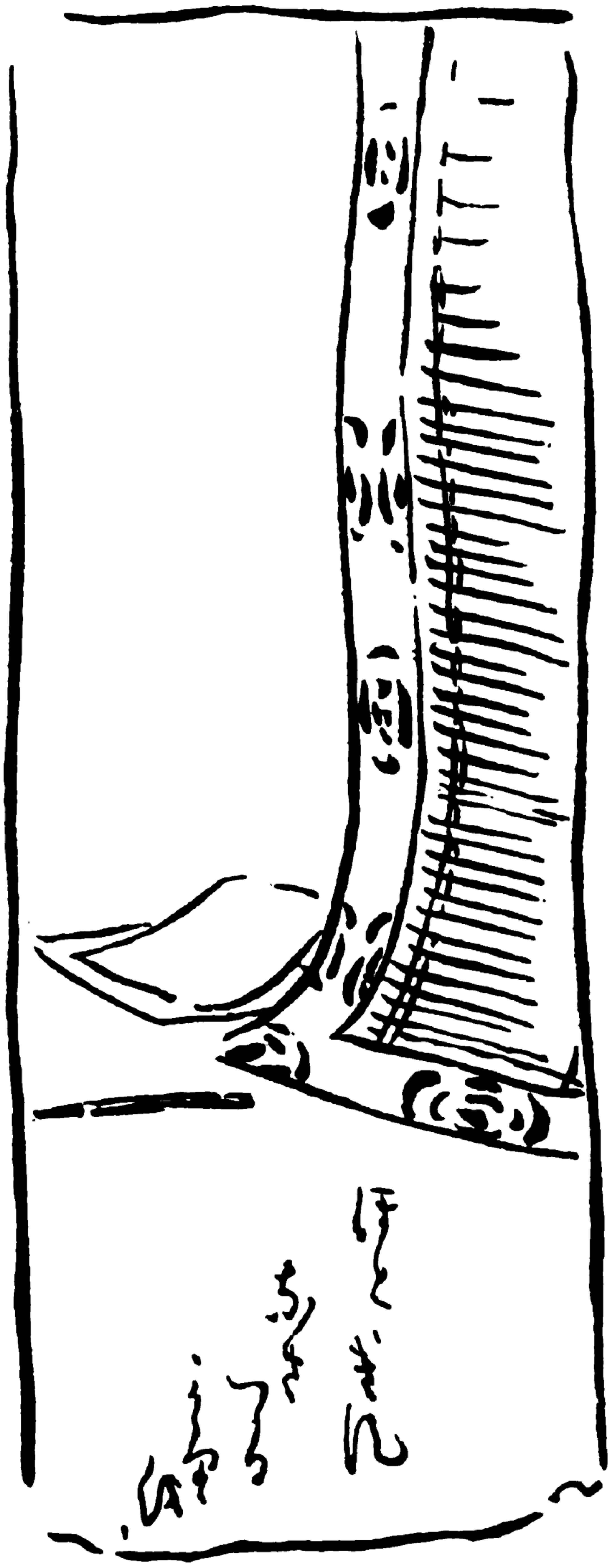
まづ高等女學校を卒へれば大抵十八九か多くて二十歳位で、そろ〳〵縁談のはじまる年齢でございます。そこで先づ一二年家庭に於て家事を見習はせ、傍ら裁縫、茶の湯、活花、あるひは音樂などを學ばせるといふのが、一番多い例のやうに思はれます。これだけの素養があればまづ家を持つても差支はありますまいけれども、今一歩進んで考へて見ますと生活狀態がいつまでも單純であれば宜しうございますけれど、何分世は日進月歩で、さうして生存競爭の烈しい今日であつて見れば、いつどう境遇が變るか分りません。男子は世界を以て活動の舞臺として文明を競うてゐる當節柄、女子の職分は一家の中に在りとは申せ、其の一家は昔時の一家とは大分趣が變つてをりまして、都合によれば一家を擧けて外國までも踏み出して、外人の間に生活しなければならないやうな場合が無いとも限りません。左なくとも外國人と交際をすることもありませう、又夫が海外にでもいつて留守を引け受けるといふやうな場合でも、唯ぼんやり留守番をしてをるといふ譯には參りません。周圍が進歩發達して行く其間に立て、萬事萬端不都合のないやうに適當に處理してゆかなければなりません。かやうに世が複雜になるに從て女子にも夫れ相當の知識才能が必要となつて來ます、それで突飛の樣に思召す方があるかも知れませんが私の考では親の傍にゐて屈托の少い娘時代に、なるべく學問をさせて凡てのものゝ土臺となる處の、頭腦を養て置く事が大切であらうと思ひます。

又家政上の知識を養ふにしてもそれ〳〵專門の學校に入れて、まづ學理的に學ばせた方が宜しからうと思ひます。そうして土臺となる處の頭腦をこしらへて置て、家を持てから或は持つ前からでも、實習によつて研究に研究をし、經驗に經驗を積んでいつたなら、立派な家庭が築き上げられるだらうと思ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。例へば立派な建物を拵らへやうとすれば先づ外部に現れないところの土臺を堅く造らなければなりません。

けれども一人の體で何もかもといふ事は到底不可能ですから、或は文學的のものなり或は理科的のものなり、又は音樂なり、技藝なり當人の性質、才能、希望等によつて撰んで學ばせたら、如何でせう、尤も誰でも彼れでもが是非といふのではありませんが、若し當人の健康其他の事情が許すならといふのです。



「私はもう今から學校へ入て勉強する事は出來ないから、せめて娘には勉强させたい」といふ言は能くおつかさん方から聞く事ですが、私も同感でございます。物に觸れ事に當て自分の足りない事を感ずることが始終ですから勉强の出來る境遇に在る若い方には、なるべく勉强をなさるやうにおすゝめするのです。

けれども又ある人はかう申されます、「女に學問をさせると生意氣になる、傲慢になる、お轉婆になるハイカラになる、虚榮心が強くなる、男のやうにな

る、お嫁に貰手がなくなる」と、なるほどそれでは困ります、その位なら寧ろ學問なんぞ無くとも謙遜で柔和でどこまでも女らしい方が遙か宜しうございます。しかし何故女子と學問とがそんなに合はないのでせう。學問が女子の德を害ふなど〻いふ事は實に不思議千萬です。私思ひますのに、一般の人々の中にも善人と惡人とあるやうに敎育を受けた人の中にも男女に拘らず時には厄介な人間が無いとは申されませんが、其理由は敎育が智育の方にのみ走つて德育が缺けてゐる卽ち精神の修養が充分でないからで、つまり敎育が圓滿に行かなかつたからでありませう。女子には稀に見るところの學者で、しかも謙遜でやさしくて誠にゆかしい御婦人が、私が存じてをるお方だけでも幾人とあります。今時の若い女子が學べる時に充分學んで智を博め才を廣め趣味を高めるやうに勉めるのは、獨り女子の幸福でなく、又男子の幸福、延ては社會の幸福でせう唯忘れてならぬ事は精神の修養であつてこれはどうしても宗敎によらねばならないと思ひます。

## 高等敎育を受けさせたい

某夫人

女學校卒業後結婚までの子女の敎育、これはいろ〱議論も御座いませうが、私はどうしても今少し進んで高等の敎育を受けさせたいと存じます。家事のお稽古の大切なことは申すまでも御座いませぬが私は今日の婦人は高等女學校の敎育だけでは、少し不足に感じます。

家の中の、たゞ手先きの用事だけならばそれは、高等女學校卒業後、少し裁縫とか、料理のお稽古をすれば、用は足りませうが、(仰山な事を申すやうですが)我が國も世界の强國となりました今日、婦人も、今少し高等の敎育を受けて、人として發達してゆかなければならぬではないかと存じます。またよほど勝れて發明な人、才能のある人で、自ら敎育し

てゆく事の出來る人は格別、普通の人では、到底女學校の教育だけでは、完全な良妻となり、賢母となることはむつかしからうと存じます。

裁縫や、料理、一家の整理などは、休暇など、學校のひまを見て、(注意して居れば)充分に教へ込む事が出來ますから、私はどうか良緣ありますまで家庭の事情のゆるす限り、女學校より少し以上に、頭の方の教育をいたしたいと存じて居ります。

# 親と子

額賀鹿之助

## 一

子の誕生は親の誕生である。未だ子のない中には眞の親心は授けられぬ。しかし子が呱々第一呼吸を始めると共に親心がつくのは不思議である。されば親と子は同時に生れるのである。

親と子は一である。一であるが故に子の患ひは親の患ひ、子の幸は親の幸、子の健康は親の健康、子の病氣は親の病氣となるのである。

大きい子には餘り親の世話は要らぬであらうけれども、幼ければ幼いだけ子に對する親の注意が必要である、唯慈しむだけで子が育つと思はばそれは大間違である、慈しむが上に更に智識的の注意が屆かなければ子は育つてゆかぬ。それだから若い親は始めての子を失ふことが多い、畢竟注意が足らぬからである。乳房で壓殺したり、鼻がつまつて居るのを氣付かずに窒息さして了つたりすることは能く聞くことであるが、斯るものは未だ親たるの資格のないのである。之はあまり極端な例であるが、もつと細かい所に氣を配るべきことが澤山ある。乳兒はまだ口が利けないのであるから、此所が痛い彼所が惡いと訴ふる事が出來ぬ。たゞ泣くより外に仕方がない。譯の分らぬ親は「泣く子は育つ」といふ成程泣けば深呼吸をするから自然肺が丈夫になるかも知れぬけ

れども、いつも泣く子は育つなどゝいつて安心して居る譯には往かぬ。泣くのにも種々ある。實際運動の爲めに泣くのもあらう。しかしさういふ時の泣聲はどこかに愉快な調子があるものである。ところが子に何か氣に向かんことがあるとか、或は身體に苦痛がある時には泣方が平常と全く違ふ。それを聽き分けるのが親の務である、また慈悲である。設令ばヒツヒと泣けば皮膚の何處かに針で刺すやうな痛があるであらうとか、フームフームと元氣なく泣けば腹痛がするのであらうと想像することが出來る。其れに眼に力がなく不安の色があれば檢溫器を用ゐずとも熱のあることが解る筈である。赤兒の病氣はチヨツトの油斷が大敵である。何しろまだ非弱いのであるから病氣に抗抵することが出來ずして、直に斃れて了ふ。それだから惡ければ直く適當のお醫者樣に診て貰ふことが一番よいことだが、其前に親の常識ある注意が肝要である、お醫者樣とても始修側に付いて居る人の注意なしには赤兒の病氣ばかりは恐らくは薩張見當がつかぬことが多いだらうと思ふ。

二

爰に若い親がある。其子は未だ生れてから半年計りにしかならぬ。ある朝顔を拭てやらうとすると、眉の邊に小豆ほどの水泡樣のものが出來てゐた。母は何の氣なしに潰してしまつた。ところが間もなく額に二三の同じやうなものが出來た。それもいつしか知らぬ間に潰れて了つた。其中に耳にも、鼻にも、頭にも、頬にも續々水泡が發生して來た。其移り行く狀態が恰かも火花が飛んで火脹が出來るのと同じである。卽ち之は俗に飛火といふ疹である。之れとても母に經驗があつて注意が屆けば、始め一つのときに其汁を外に附着せぬやうに脫脂綿か何かで拭取つて其跡へ硼酸軟膏でも厚く塗り付けて置いたなら、そんなに擴からぬうちに癒つてしまつたであらうけれども、もう顏一面に出來てしまつてはなか〱癒すのが困難である。そこで、びつくりしてお醫者

樣に相談する。お醫者樣が來ても他に仕方がないから、例の硼酸軟膏とか亞鉛華軟膏とかいふものを下さる。それを塗付けると可愛い子供の顏は白や黄色の班になつて醜い。其上に目口鼻ばかり出して繃帶して御覽なさい、益々だいなしになる、まるでお化の子のやうである。しかしさうせねば胸から背中、手や足に至るまで擴がつて手の付けられぬやうになる。これは別に生命に係るやうなことはないといふことであるが、子供は實に憫然である。神經の過敏になるものであるから自然むつかる、痒さに堪へずして身體を踠く。之を見る親は寔に切ない思をするのである。是は乍併、左程恐しいものでないのであるから充分に手當をすれば直に全治して少しも班痕を遺さない。元の玉のやうな顏となる。父母は之を眺めて悅ぶのである。

## 三

父は安心して公務を帶びて暫く留守をした。其後子は時々乳を吐いたといふことである。固より乳兒の胃は彎曲が少ないから容易に吐くのである。併し若い母は心配した、年をとつた婦人に相談すると、子供は乳をあます程哺まなければ駄目ですといふ、また若い醫者に診て貰つても別に心配することは要らぬといふ、そこで母は安心して居つた。ところが父が歸つてみると、其泣聲を聽いてはつと思つた。これはどこかに病氣があるなと直覺的に感じた。能く注意して見ると顏は肥つてゐるやうでも、少しく腫ぼたいやうである。泣くとき手足をバタ〳〵元氣よく動さぬ。どうも力が乏しい。父自らもさう思ふばかりでなく、一人の友人もどうも、惡いやうですと云つてくれるものだから、他の經驗のあるお醫者樣に診て貰ふことにした。父は其折、前に飛火のときに種々藥を貼けたり服ましたりしたからヒヨツトしたら藥の中毒ではないかと母にお醫者樣に尋ねるやうに注意してやつた。母は靜かに子を抱いてお醫者樣のところへ行つた。お醫者は早速診てくれた。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供の方はチョット診たゞけで、今度は母に向つて貴女の手をお出しなさいといふた。母は少し愕ろいて、イエ私は何處も悪くはありませんと答へた。お醫者は無理に母の脈をみたり胸を打つたり聴いたりして、今度は足を出さして膝をコツコツ打つた。さて詳しく診了つて曰ふには「貴女に少し脚氣の氣味があります、お子さんの悪いのは夫れが爲です。母に自覺されぬ位の輕度の脚氣が子供に却つて酷く感染するものです、今ならばまだ手後れといふのではない、非常に衰弱して居るが必ず恢復しやうと思ふから、貴女の乳は一口も哺ましてはなりません、今から直ぐ牛乳を與へねばなりません。」と其他二三の注意をしてくれて母の薬の處方箋を呉れた。母は驚いて歸つて來た。早速牛乳を買ふて來て、護謨の乳首で飲ませやうとすると子供は飲まぬ。無理に飲ませやうとすると今度は泣き出す。どうしてよいか分らぬ。仕方がないから匙で少づゝ注ぎ込む。其時にあゝ早く乳首で飲むことを馴して置けばよかつたと



後悔する。丁度其日から子供の様子が悪かつた。ハツハツハツハツ泣き出すと留度を知らぬ。唇は紫色になる、呼吸はつまる。眼球は上の方へつれる。之を側で見てゐる父の苦しさ、之を抱いてゐる母のつらさ子の苦は親の苦である。寧ろ自分の苦しみの方が遥かにましだ。殆んど二三日の間は夜の目もねずに看護した。其爲か四日目頃から漸々元氣付いて來た。時々ニコ／＼と笑ひ出して來た、ところが今度は母の方に熱が出て來た。乳が脹れ出さんとした。それは排乳ポンプを掛ける事を怠つたからである。しかし努めて乳汁を吸出したので辛じて乳房炎を防ぐことが出來た。そこで子は母の乳を呑で育ち、母は乳を授けて助かるものであることが解かつた。親の方が日増に快くなれば從つて又子の方も快くなる。殆んど一週間も經ぬ間にズン／＼と薄紙を剝ぐ如くに母も子も癒つて了つた。而して若い父と母とは始めて愁眉を開いたのである。しかしまだ母の乳のみで養ふ譯にゆかぬ。始めて牛乳七分、母乳三分位の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

割合に呑ませ、それで何ともなければ次には半分半分の割合に進み、今度は牛乳三分母乳七分にして試二三日經ても吐くやふなことがなければもう大丈夫全治したものとみて母乳ばかり與へて差支ないのである。

## 四

若い親は斯くの如く失敗し、心配し、苦しみ、悲み、又斯の如くして子の病氣を心付き、お醫者樣の有力な相談を得、危ない生命を取止め、且つ悦に入る事が出來たのである。ア、子を持てる若い親子樣方よ、皆樣の學校で學び得たる常識を充分に活用して下さい。親の注意が足らずして子を死なすは大いなる罪惡であります、神樣からお預り申した子を護るのは親の神樣に對する責任であります。子は親の爲に生き、親は子の爲に生き、子は親に救はれ親は子に救はるゝのであります。また其所に人の父母たるものゝ幸福と喜悦があるのであります。



# 姉樣へ

露

待ちにまたれし櫻花もいつしか散りはてゝ、青葉若葉うつくしき頃と相成申候。姉上樣には如何おはしますらん、御きげんうるはしくいらせられ候や伺ひ上候。私こと御陰樣にて至極丈夫にて、學びの庭にいそしみ居候まゝ御安らかに思ひ給はり度候。さて、此間ある教會にまゐり候ふて、衆議院中その人ありと知られし藏原代議士の演説うかゞひ申候。姉上、藏原樣と云へば、如何なる御人柄と御想像遊ばし候や、我が朝ならば、武藏坊辨慶、もろこしならば樊噲を見るやうなる豪傑風のお人品を思ひ浮べ給はずや。私は實は右のやうなる豫想もて氏を會場にお待ち申し候ひき。威儀をたゞして入り來り給ふ氏、まづその御まなざしの烱々たるにおどろかされ、御身の細長きに接して、私の想像力は全く價値を失ひ申候。壇上に立ち給ひて「諸君、私は光榮に存じます」

との御挨拶より、凡べて洒落な御演說ぶりに御座候ひき。演題は、英國婦人の、女權擴張運動と申すにて、氏の先年御渡英中したしく見聞せられ候まゝを物語られ候ひき。

英國は歷史を重んじ、習慣を重んずる國柄なるに、何故にかゝる突飛なる活動を始めたるかを怪んで、その源をたづぬれば、源起は遠くして決して偶然にいでたるものにあらず。遠き昔、ジョンステュアードミルなる哲學者出で、男女同權說を哲學上より說きて、すでにその萠芽は、此時早く生せしものなり。その後人格純潔、思想豐富なる女流學者ハリエットマーテニュー女史あらはれて、そのうるはしき筆のあとに男女同權の眞理なるよしをとゞめて、今日の運動の先驅をなせり。その著しき活動はこの十數年このかたなりと仰せられ候。

現今英國婦人中には、法學士あり、醫學博士あり、文學者あり、大學敎授あり、市長の椅子に坐せるあり。その實力に於て男子と拮抗して、毫も遜色なき有様のよしに御座候。女子また之れを自覺して實力も同等義務も同樣盡しつゝあるに、その權利のみ、ひとりはるかに男子に及ばざるは、甚だその意を得ず。されば女子にもひとしく正當なる權利を與へよとは、女權擴張運動者の主張にして、實に數十年以來の宿題のよしに御座候。氏は此の運動者の首領パンクホールド夫人に親しく御面會遊ばして、その所說をうかゞはれしよしに御座候。夫人は齡五十路あまりの容貌清楚、思想高尙此の人にして、優雅なるべき女子に、おそろしき暴動をものすかといぶからるゝほどにおちつきて、靜なるお人柄のよしに御座候。その愛孃ミスパンクホールド母の志を助けて、また一方の驍將たり。芳齡まさに二十三才花よりもげに麗しき姿にて、その意氣や天をも衝かんずるさまのよしに御座候。夫人はその所志を述べて、吾等は、正義の爲めに女子の正當の權利を主張せるなり。暴力に訴ふことのうるはしからぬは知らざるにあらざるも、吾等は既に數十年來此の主張の爲めに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

凡べての手段を取りつくせり。演説に建白に請願に凡べての方法は、此のいく年月の間になしつくして、更に此の目的の達せらるべくも見えず、殘るは此腕力に訴ふる一事あるのみと嗟嘆せられし由に御座候。此の夫人の麾下に馳せ參ずるもの約四十萬と注せらるゝよしにて、その運動ぶりはめざましなどは愚のよしに御座候。氏は一日ロンドンのハイドパークに於ける這般の活動ぶりを見物せられしよしに御座候。幾十萬と稱せらるゝ婦人、これに男子の野次馬をそへて、皆一定の制服のもとに、隊伍を整へ威儀を正して、その首領、各部長等壯麗なる車上にて之れを率ゐ、公園の所々に、車上演説を試みらるゝよしに御座候。美くしげなる佳人の匂ふと見ゆる唇より焔の如き大抱負、大議論の迸りいづるを目擊しては、しかも何千の部長より、一時に之れを開始せらるゝに逢ひては、その響き天をとゞろかし、地を動かして、驚きのあまり目もくれ、魄も消ゆる心地したるなどお話しなされ候。

その他思ひもはかられざるほどの暴動に出づる事も敢て珍らしからず、著名の政事家の遭難など、しば〱きこゆるよしに御座候。パンクホールト夫人は先年の代議士選擧には、女權擴張に反對の議員四十三名を落選せしめきと話られしよしに御座候。纖弱き女子とのみ思ひあなどりたる男子も、この形勢を見ては、喫驚、更に、狼狽せざる能はず。目下、ロンドンは婦人の洪水に漂はされつゝあるの觀あり。政事家の頭痛は、專ら、此の問題にあるよしに御座候。是等の女子は死を賭して此の運動に着手せるものゝよしにて、粉骨碎身なほ足らずとするの意氣當るべからざるものゝよしに御座候。單に英國女子の爲めのみならず、世界の女權の爲めにいづこまでも獻身を辭せずとの主張のよしに御座候 氏は彼等は、幾年ならずして、その主張を貫徹すべしと仰せられ候。暴力にまで訴へたるはいさゝかその意を得ずとは云へ、その主義正しくその意氣や愛すべきものなりと結ばれ、翻つて、我が國の婦人を見るに、優雅

靜寂にて一方に甚だうるはしきを見るも、その實力やあはれむべく、その品性や、むしろ優柔不斷に流れ、男子の無法なる蹂躙のもとに甘んじて、之れを如何ともする能はざるものも少なからず。かゝる有様は吾等男子より見るも、氣の毒に堪へず。今後大に奮勵して實力を養ひ、品性を高めて當然の理として、正しく權利を有せん事、切望に堪へずと話し終られて、湧くが如き拍手の中に、悠々と降壇せられ候。手をふり足を擧げての痛切なるお話しぶりは、名高き議場の武者ぶりを彷彿せしめ申候。

姉上は如何に考へ遊ばし候哉。かの人々の暴動にまで出でらるゝは、もとより、感心いたさず候へ共、男子をゝ後に瞠若たらしむるその實力と、主義の爲めには、一死敢て辭せざるその意氣、羨望に堪へず候。我が日本婦人も　實力と、品性とを飽くまで修養いたし候ふて、外見はともかく、實質に於て、せめては、おとしめ思はれざらんほどには進み申度候。思へば人も、われもはがゆく候。殊におくれがちなる我が身こそ悲しくも、無念にも存せられ候へ。また例の慷慨と笑ひ給ふな。

時候のかはり目に候まゝ、折角〳〵お身御いとひ遊ばされたくいのり上まゐらせ候。おひまもおはしまし候はゞ、おもしろき御たより御きかせいたゞきたく御ねがひ申上げ候。故郷遠くはなれたる身は、御消息のみひたすら、待ちくらされ申候。

## 最も憐れな人

みや

日曜日午後教會から歸りますと、家人がけふは大變な火事でございましたねへ。吉原が何千戸と燒けたさうでございますと申のを聞きまして、マアそれは大變であつた。けれども吉原で仕合せだつたねへと、此際、此あはれな氣の毒な際でありますのに、つい云ひ出しまして、あゝ濟まなかつた、申譯はないと後悔を致しましたが、情けないことに、會ふ人々の語氣が皆多少其氣味を帶びて居るのは實際のやうです。つひ此程飛びのりにのつた車夫が此間は大變な火事でございましたねへ、だが吉原はいゝ氣味でした、無理な金をしぼつてさんざ人に迷惑をかけてゐますからねへ。氣の毒なのは廻りの家です。飛んだ災難を受けましたと、誰問はぬに眞面目に得意氣に話すのを聞きましてあゝ、彼等の口から迄斯樣の無情のことを。おもへば世の中に藝娼妓程憐れなものはありますまい。幾人と數知れず替り行く遊冶郎の甘言も、たまには眞に有難く嬉しく感じて命までもと、思ひ込んで情死を迫まるものさへあるを思へば、彼等のつらい境遇が思ひやられます。あゝ彼等を此處に墮落せしめたのは誰の罪でしやう。そはさまれかくまれ、どの方面からでもかゝる憐れの婦人を救ふ方法を講じて見ねばならぬと思ひます。彼らを救ふは多くの墮落せる男子を救ふこと、涙の乾く日間なき彼等の妻子や老父母を救ふことです。

## 時事ろの折々

### ▲清國の借款成立

◎久しい間、北京の一問題となつてゐた米獨英佛四國の一億圓借款契約は愈々成立を告げたので、我國上下の識者がとりどりの批評を加へ、果ては我外交失敗の一新記錄とさへ極言する者もあります。何故に此借款問題が極東の大勢に關係するかは、記者の詳しく知らぬところであるが、今其由來等を聊か陳べて見たい。

◎本借款は昨年十一月十日米國のモルガン、シンヂケート、と、獨英佛三國の資本家團とが英京倫敦で協約を締結したる結果、四國共同といふことになつたものであるが、其中に就いて最も重きをなすものはやはり首唱者たる米國であるから、此成立を見るにつけ米國官民の滿悅禁ず可からざるものがあるだらうと想像される。英獨は一千八百七十七年の伊犂公債以來、佛國は一千八百九十五年日清戰爭後の償金公債以來、各自清國に於て債權を有することとなり居り、二年前迄の計算では、英獨シンヂケートに對する淸國の負債は二億八千萬圓、英佛シンヂケートに對するもの五千萬圓、此外英國に對して一億二千六百萬圓佛國に對して一億二千五百萬圓、獨逸に對して三百九十萬圓の未償還公債が淸國の義務となつてゐる。故に今回の四國中、他の三國は既に從來淸國に對して債權を有したるに、獨り北米合衆國のみが然うではなかつたのである。

◎然るに米國は近來益々膨脹せる國富を擁し乍ら東洋に活躍しやうとしてゐる。日露開戰は露國の滿州に於ける勢力の扶殖を阻まうといふ目的に出でたることは明かであるが、或論者の如きは、米國が滿州を以て自國生產品の大市場とするといふ遠大なる趣意から、露國の南滿經營を喜ばぬ。米國は、露國の勢力を此地方より一掃して徐ろに商權を獲得し獨占しやうといふ目論見より、日本の尻押をなしたのであるといふことも穿つたやうなことをいうてゐる位である。此說の當否は遽かに斷ずべからざるものとしても、米國が東洋に於て一大勢力を張らうとすることは決して爭はれない事實で、此一事は到底忘れてはならぬことであると思ふ、それかあらぬか、米國が主として日本の對滿州政策のいかにも自分の豫想に反してゐるが如きこともあるにつけ込んで此度は淸國上下の人心を動かして日本に對する反感を煽り立てないまでも、少くとも其歡心を買うて後に其奧の手を出さうとするに至つたらしい。かういふ觀察は或は僻目に出であるかも知れぬが、どうも然うらしい。一躰日露戰爭の前後、米國は淸國にたいて頗る優勝な地位を占めてゐた。一方には粵漢鐵道の敷設權を獲得すると同時に、又他方には其結果でもあるまいが一時米國の對淸輸出は實に一億テールに達した。然るに該鐵道の工事は契約期限に遲れたため獨占の特權を失ひたるのみならず、對淸貿易も其後日本其他の列强に押されて次第に衰微し、一千九百〇九年には終に六千萬テール臺に減少した。そして、日、英、露、獨、佛等の諸國は夫々租借地を有して政治上又は經濟上の發展に至極便利な

根據地を控ゆるも、米國は獨り此列外に立つてゐる。で、米國は何がな清國に干渉の端緒を得やうと焦心してゐる。先づ南滿州鐵道を中立地帶として之を列强の共同經營に移さうといふ提議も突然提出されたが、之はまんまと日露兩國の强硬な反對で失敗に歸した。ここに於て錦愛鐵道で其を知られたストレート氏が奉天在勤總領事を辭して清國に於ける米國實業團の代表者となり、百方考慮の末、幣制整理の資金を米國より清國に供給せんとの交渉を開始した。最初は今回の借款に加盟した英、獨、佛は勿論我日本にも加盟を勸誘したが、日本は日清兩國の利害に鑑み之に加入するの不利なることを思ふより、體能く拒絕した。そこで、英、米、獨、佛の四國が協同して公然清國に借款の交渉を開始することとなつた。而して此交渉開始は實に昨年の秋頃であつたのにも拘らず、今日まで荏苒として容易に結末がつかずにゐたのは、つまり財政顧問雇聘の一件が其障害となつてゐたからである。

◎此財政顧問といふは、清國の財政一般に對するものなるか、乃至、借款の使途に就てのみの顧問なるか、不明であるが、恐くは後者であらう。若し前者だとすると、其顧問が第三國の國民たると否とを問はず、利權囘收熱にうかされてゐる清國官民の之に反對するは勿論のこと、日露の兩國にも反對あるべき筈である。此財政顧問雇聘の一件は借款契約以外の別協定事項として借款の成立を促進したのは、我橫濱正金銀行が一千萬圓の借款に應諾したといふことに由るといふ噂である。而して今日では此財政顧問も愈白耳義人と決定し、ストレート氏は奉天に駐在して其實權を行ふこととなつたといふのは、此借款の使途目的を一見すると直に會得される。

◎此一億萬圓の借款は、（第一）其中の七千萬圓は清國の幣制整理の資金として用ゐられ、（第二）、殘額三千萬圓は滿州に於ける產業開發の資金として使はるるといふのです。而して其擔保として擧げられたものは、滿州の煙草及燒酎稅百萬圓、生產稅七十萬圓　消費稅八十萬圓で、一億萬圓に對する一個年の利子五百萬圓の中二百五十萬圓は實に滿州の負擔である。清國政府が借款の三割を滿州の產業開發に投ずると否とは暫く別問題としても、其借款の擔保として多く滿州の租稅を取つたことは、經濟問題が一變して他日重大なる政治問題となりはしまいか、三國干涉の結果で遼東半島を還附した日本は又もや經濟方面から壓迫されて、我南滿經營をして畫餅に歸せしむるが如きことはあるまいか。とかやうに世論の多數は觀察してゐるやうです。

## ▲清國の幣制改革

◎前項に於て四國借款のことを略報したが、本借款の使途として數へられた清國幣制の改革事業は果して出來得ることか、如何といふことについて更に多少の略說を試みておきたい。といふのは、清國の幣制ほど亂雜なものはなく、之がために內外通商上多大の障害を蒙りつゝある故、今此計畫が能く當局有志者の希圖を遂げしむるや否やは、清國の將來にとつて非常な影響があることを知るためである。

◎つまり清國の幣制が今日亂雜無秩序に陷つたのは、各省分權の制度に基くものというて可い。從つて中央集權制にして確立するにあらざる限りは、此改革も到底沙上に文字を描く愚を演ずるまでであらうと思ふ。

◎而して若し清國の幣制統一によつて直接に且つ現實に損害を蒙るものは各省總督である。何故かといへば各省總督は我封建時代に於ける各藩主と同樣貨幣發行權を有し、此貨幣鑄造に由つて彼等は莫大の利益を得つゝあるの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で、一朝幣制の統一行はるゝ曉とならば、彼等の利益は將來消滅する譯であるから、彼等は表面幣制統一の美名に反對し能はさるも、陰に廻つて之を妨害しつゝあることは蔽ふ可からざる事實である。

◎又清國に於ける普通の銀行家、兩替商等が貨幣制度の無秩序なるを利用して種々の利益を占めつゝあることは、曩きに一應紹介した事もあるが、之に由つて彼等も亦年來の利益を失ふことゝなるであらう。しかも彼等と清國地方大官との間には夫々秘密の關係を結んでゐるから、彼此相呼應して猛烈に幣制の統一に反對するに至るであらう。

◎かやうに上下相結んで此幣制統一に反對するものある以上は、北京政府は列國との條約に從ひ且は國家永遠の利益より打算して、此一事丈を美事に斷行しやうとしても、無氣力なる政府當局者は到底やり了うせることは出來なからう。若し此障碍を排除して幣制の統一を斷行せんと欲せば、中央政府に絕對無限の權力が現實に存せなければならぬが、北京政府の現狀を見るときは、どうも此間に疑を容るべき餘地がある。是れ即ち中央集權が幣制の先決問題であるといふ所以である。然し此中央集權制度も仲々容易に確立さるゝ望もない。歷史の打破は一國一城を陷れるよりも更に至難なことで、殊に支那に於ておやである。

◎尙清國の幣制を統一するがためには、少くとも五億以上の正貨が必要であるといふことである　然も僅に一億圓の借款中三千萬圓を滿洲の興業費にふり向けるものとなるならば殘るところは七千萬圓にすぎない。之を以て幣制の改革を計ることは、清國目下の財政事情の許さざるところである。それで此七千萬圓も結局外國との爲替關係を改善するがために使用されて、借款本來の目的には充當されまいといふことである。

◎元來清國が此借款締結に由つて得るところは果して清國の利益になるであらうか。之に由つて徒らに列國に清國內外の政治に干涉の機會と容喙の端緒とを與ふる結果、益々事端を滋からしむることになるばかりであらう。清國は清國の了見でやつたにしたところで、清國の爲めに隨分骨打つてゐる日本が之を他のこととして全然棄てておかれぬ譯である。

## 新刊紹介

◎**女の心**　高島平三郎著　洛陽堂發行　定價　四拾八錢

著者は本書の序文に於て「依然として女は謎である、而も麗はしい謎である、此謎はあんまり解からぬ方がよいであらう」と云つて居る、固より謎の女の心が此の一書で解き得たとは云はれないが、心理學者の立ち場から女子の思想傾向を諸方面から論じた面白い論文である。敎育家や父兄の恰好の參考書たるのみならず、女子自らが之によりて大に悟る處が多い事と信ずる。附錄として嘗つて心理學通俗講話會に講演した「嫁と姑」を添ふ。

◎**主日**　シクル、ピカステス原著　矢口保次郎譯　普光社發行　定價金拾錢

本書は安息日の歷史、主日に關する法則、英國敎會員の實例など開披せらるゝ處が多い殊に「ジョージハーバーやグラットストーン」などの敬虔なる實驗が揭載してあるは面白い



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 隨感

## ▲眞にお芽出度こと

海老名みや

過る日親しき友人が同時は一人は農學博士に、一人は理學博士になられましたに付て私共は眞に嬉しく感じました。世の中からは木の端のたぐひと思はれて居る我々から見れば、ヤレ御芽出度お仕合だといふとが、悉くお芽出度ともお仕合せだとも思はれない事もありますが、揃ひも揃つて謙遜にして溫厚なる此お二方が孜々として日夕怠りなく積ませられた勉强の結果として此尊號を受られましたのは眞にお芽出度ことだと思ひます。過る日曜日には兩氏と親しみ深い我本鄕敎會の兄弟姉妹が滿腔の喜悅を以て兩氏の爲に、大塚の端れ巣鴨の入口なる自營館を借りて祝賀會を開きました。春も酣なる四月の中旬會するものも多くは靑年男女、紅、綠とり〴〵に美しい廣庭で此お祝ひとしましたのは實に相應しいことでありました。我もいつかは此名譽ある月桂冠を得てかゝるむしろの正賓にならんものと、希望に輝ける靑年諸氏の意氣込を見るのは我々婦人にとりましては眞に嬉しく勇ましく感じます。世の中で立身出世といへば、二頭だての馬車で大道せましと乘り廻すことや、ブー〳〵と殺風景な猛獸のたける樣な音をたてゝ、狹い道路を傍若無人に自動車で疾走する身分になる樣な事を申ますが、之は實に浮雲のいつ消ゆるかも分らないもので羨むに足りないもの。それとも此お二方の樣に一意專心學問界に於て奮勵努力された結果として得られました此名譽は、眞に其人の身の光でありまして、尊むべく喜べきことであります。どうか私共の喜びをお年寄らせ玉ひし其母君方のお喜びに加へて頂き度いと思ひます。

# ▲極度の内氣

安井哲

女子の内氣は、誠にしほらしい者でありますけれども、之れが極度に達すると他人に不快の感を與へます。一體吾々が他人の前に我を忘れる時には、他人を心易く感じさせますけれども　自分を意識する事が余り強いと、他人に打解け難くなります。吾々日本婦人は余り謙遜に育てられましたから、時としますと意味なしに他人に對して耻づかしがり、之れがために客としては主人に無益な心配をかけ、主人としてはお客に氣兼をさせる樣になります。私共はお互に他人を幸福ならしむる義務を有つて居ますから、他人を喜ばせる爲めならば、成るべく自分を犧牲にする覺悟がなければなりません。其故に余り自己を意識して他人に不快を與へるやうな事のない樣に注意したい者であります。「あなたは此れと彼れとてどちらがお好きでいらしやいますか」とお尋ねすれば「どちらでも」と答へたり、「これを御存じですか」どうかゞへば「へ、、」と答へたりさるゝ方々もありますが、之れでは問ふ人に滿足を與へません。どうせ物をあげるならば、お客樣の最好まるゝのをと思つてたづねるのに、不得要領の答では何の張合もありません。又折角面白い話をしてあげやうと思つてうかゞふのに其話を知つて居るか、どうだか曖昧では何の興味も起りません。吾々はお互に他人の缺點を觀察しあふ爲めに交るのではありませんから、自分の心を他人に秘する必要は少しもありません。又吾々は一人として完全な者ではありませんから、缺點も多く知らぬ事も多くあります。之れが他人に認められたからとて、何の耻づる所がありませう。却つて知らぬ事は自分から進んで他人に學び、立派な方々に接して其善良な感化を受けた方が利益であります。極度に達した内氣の心狀を分解すると、他人に吾短所を觀察されまいとする一種の傲慢が潜んで居ます。其故常に他人に遠ざからんとし、又他人の前では遠慮に過ぎて、其後では反對に惡口を云ふ樣な卑劣な行動をなす樣になります。吾々婦人はお互に有つてゐる此種の短所に注意して、互に打解けた面白い交際を爲す樣にしやうではありませんか。

# 編輯だより

△去月九日に淺草方面の大火がございまして、折柄の烈風に、目も當てられぬ慘狀を來しました事は、讀者諸姉の御存知の事で御座いますが、其後之を機さして遊廓の存廢が方々で論ぜられ、去る二十一日も神田の青年會さ和强學堂で演說會が開かれました。吾等は此問題を以て吾國の重大なる事件さし、特に又吾國婦人の覺醒の爲めに恰好の事件であるさ信じました故折角苦心して蒐めました原稿を捨てまして、特更に此婚風問題の爲めに「想苑」の多くを割いた次第で御座います。本誌の記事は該二會で聞き得ました講演の概略であります。

△それから「家庭」で御紹介申した「高等女學校卒業後婚嫁迄の子女の教育を如何にすべき乎」さの問題も、父兄にさりて重大なるのみならず、子女其人にさりても熱慮すべき事だらふさ思ひますうけれごも、讀者諸姉の御參考になる事が多からうさ思ひます。弘田御夫人元良御夫人及其他の御意見は夫々趣が異つてをりませ

△湯臺叢話でおなじみの理學士谷津直秀氏は此度博士の學位を受けられまして、其上花の樣な新夫人をお迎ひになりました。誠におめでたき限りで御座います。本鄕敎會では去月十六日巣鴨の自警舘で、谷津氏さ同時に農學博士におなりになつた大工原銀太郞氏が、文部省から留學を命ぜられて獨逸においでになる御喜びさ合せて祝賀會を開きました。

△羽仁もさ子氏の經營になつて居る雜誌「婦人之友」は六月號から一大發展をなして世に表はれるそうで御座います、もさ〱眞面目な實際的な同誌の事で御座いますから、何れ立派なものが出來る事だろうさ期待して居ります。

△諸種の投書を歡迎致します、特に各自日常生活の中より得られたる御感想を頂戴致したいさ思ひます。

△次號締切は本月十五日麹町區飯田町六ノ廿一大塚宛御送附を願ひます。


本誌定價（一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價（壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

| 廿七字詰 行 | 四分ノ一頁 | 中頁 | 一頁 | 內表紙拾二圓 |
|---|---|---|---|---|
| 金廿五錢 | 金三圓 | 金五圓 | 金拾圓 | 外表紙拾八圓 |

●數回引續き御揭載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと

●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京小石川林町四十三番地

新人社

（振替貯金口座一四〇〇五）

明治四十四年四月二十八日印刷

明治四十四年五月一日發行

東京市小石川區林町四十三番地

發行兼編輯人　海老名彈正

東京市小石川區小日向臺町二ノ廿六

印刷人　相原一郞介

東京市小石川區林町四十三番地

發行所　新人社

東京市赤坂區田町五丁目十一番地

印刷所　齋藤活版所


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、

松田、林、峰間三副長ハ目下當院ニ在勤、

電 本 八八八番(病院用)
八九八番(私宅用)

# 東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

## 院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱、從停車場半里

電 チガサキ二番

# 南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、

院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎月一日一回發行

明治四十四年五月一日發行第參巻第五號